

4000 名山記 2018年

○年末年始第2弾

○12/30(日)31(月)兵庫中西部 11 山

○12/30「羽東山」6:10~7:15(1:05)曇り、香下寺より往復。薄暗いうちから出発。整備された参道の道を登り進み、観音堂。その奥が羽東山山頂。樹林の中のピーク。神社に出て参拝し、広い展望所より街明かり見て戻る。

○「金剛童子山」9:00~9:25(0:25)晴れ、ゴルフ場脇の境界より地元の有志の方の表示あり、分けて進むとすぐ金剛童子山山頂。三角点あり、樹林の中のピークで朝日が心地よい。

○「帝釈山」山頂 10:55「丹生山」同 11:35 10:10~13:10(3:00)R428 岩谷峠口より往復。丹生山系縦走路を歩く。案内表示より入るとすぐ稜線。アップダウン繰り返し進むと帝釈山山頂。二等三角点、祠3つあり。南側に海・山・街・明石大橋の眺め良い。先へと下るとマウンテンバイクを担いだ5名に会い挨拶。さらに進むとトレランの2人に会い挨拶。寒波でも行動する人は逞しい。稜線を進み、急坂舗道登ると鳥居。上へ登ると丹生神社でそこが、丹生山山頂。参拝し、先に城址等の案内確認し、来た稜線を3人の登山者に挨拶しつつ、戻る。

○「雄岡山・雌岡山」14:05~15:20(1:15)地元の案内表示頼りに丘を登ると雄岡山山頂 14:20。一等三角点、広場の山頂。車で移動し神社手前より参道を歩き神出神社のある雌岡山山頂 15:05。参拝し、展望台より眺め楽しむ。

○「笠松山」山頂 16:50「善防山」同 17:40 16:35~18:10(1:35)駐車場より周回。急ぎ足で林舗道の急坂登り、切通経て登山口。上へ登ると分岐で左へ。吊り橋渡り、大きな岩を慎重に登る。方向を確認しつつ、先へと稜線を急ぐ。急坂岩々等を登り進みそのピークが、笠松山山頂。展望台・三角点あり。山々・池・街の眺めが良い。来た道を急ぎ戻り、分岐より東へ。薄暗くなり急いで稜線・急坂・岩等登り進むとだだっ広い善防山山頂。大岩が幾つもあり、街明かり、山々の眺め楽しむ。来た道戻り途中の下山路を下り、林舗道へ出て西側の駐車地へ戻る。

○「高御位山」21:05~22:20(1:15)偵察で近くまで行くと山頂まで街灯あり、急遽夜間登山。東側駐車場より参道階段を灯りに助けられながら登ってゆく。淡々と登り、神社経てその先が山頂。姫路の夜景楽しみ。南側が絶壁の岩々であることを確認し、神社を参拝して戻る。

○12/31 晴れ「明神山」6:30~8:35(2:05)池脇の駐車地より往復。薄暗い中林道進むと沢に侵食されつつある林道。滑りやすい大岩等経て6合目。急坂(気合い坂)経て明神山山頂 7:30。三角点あり、祠のある岩々の山頂(夢前の播磨富士)朝日・山々・集落の眺め良い。来た道を慎重に戻る。

○「七種山」9:35~11:40(2:05)旧山門口より往復。遊歩道歩き滝巡り。石段経て神社がある七種の滝(水は少ないが、絶壁の落差あり)。滝の上に出て急坂登ると七種山山頂 10:40。8畳ほどの山頂で、積雪 3 cm。北東側は、山々・街の眺め良い。先の名所岩には行かず、急坂を慎重に戻る。

○「白旗山」13:45~15:55(2:10)野桑口より往復。獣ゲート経て林道進み、急坂登ると別方向からのルートとの合流点。二の丸経て登ると本丸の白旗山山頂。一等三角点ある、広場の城跡で山々の眺め良い。曇りで寒気あり、来た道戻る。

○これで今年を終了。今年山入り 84 日、山は「174 山」と付帯で登った(50 山)の合計 224 山で累計 2844 山。3千名山は、近いようで遠い(大遠征しないと登れない状況)。

○年末年始第一弾

○12/28(金)29(土)和歌山中央3山 これで和歌山県の山を踏破し紀伊半島を終了しました。

○12/28「天狗岳」13:50~15:55(2:05)曇り時々雪 登山口が分からず、ネットの記録頼りに丹生神社近くより湯子川へ下り渡渉し赤布の目印付け、植林地の作業道・獣道等の急坂を上へ上へと登り尾根末端。赤布つけて先へ。雪が舞い、冬風吹きつける中、尾根を登り、3つ目の赤布、あとは稜線尾根沿いに確認しながら植林地を登り進み1P。何も表示ないため、さらに奥へと下り、登り返して進むと天狗岳山頂。埋もれた三角点と表示板・修験札あり。樹林の中の平坦な山頂。積雪5cmあり、視界は今一つ。来た道を確認しながら下りつつ、赤布を回収し、長靴で楽に渡渉して登り返して林舗道に出る。天候回復し青空が見えたことで少し満足して戻る。

○12/29 曇りのち晴れ「矢筈山」6:00~8:30(2:30)多くの落石あり所で、車は進まず、林舗道の広い空き地より往復。昨晩は雪舞っていたが、積雪なく、月明かりあり。薄暗い中、その明かりに助けられ、冬風・冷氣の中、林道を歩いて小谷峠。埋もれ階段より山入り。尾根を境界標識等目安に登ってゆく。植林地の急坂・ロープ等経て進むと田尻城址。下って登り返すと矢筈岳山頂7:20。三角点あり、岩々の6畳程の山頂。朝日見えて、冬風強い。山々・川・風力発電塔の眺め良い。来た道を軽快に戻る。

○「清冷山」9:40~12:30(2:50)R424より入った舗道口より往復。舗道をダム側へ進み林道口より林舗道を沢沿いに進み、左側に登山口。登山口入ると少し荒れているが、テープ等に助けられ植林地を登ってゆく。植林地境界の急坂を登り進むと清冷山山頂10:10。二等三角点あり、樹林の中の丘の山頂。西側に矢筈山等の眺め良い。食事し、冬風で凍える中、下山。急坂は慎重に下り登山口。清流を楽しみつつ戻る。

○12/22(土)23(日)紀伊半島大遠征、奈良南2山、和歌山中央5山 遂に奈良県を踏破

○12/22 曇り「牛廻山」15:05~16:45(1:40)R425 牛廻越より往復。急坂林道進み、広い駐車地先の赤白テープ、埋もれつつある階段より尾根をテープ等目印に登り、牛廻山山頂16:00。二等三角点、樹林の岡の山頂。冬風・雲で視界今一つ。下りの林道で青空が見えて気が晴れる。

○「冷水山」19:25~21:20(1:55)林舗道黒尾山登山口より往復。時間の制約で、満月の下、夜間登山。月明かりに助けられ、稜線尾根を進み、(黒尾山)山頂。樹林の中のピーク。さらに稜線をアップダウンして進み、鞍部より急坂登り返して進むと冷水山山頂20:20。一等三角点、満月で山々の眺め楽しむ。平坦な山頂。来た道戻る。一度別ルートへ下りかけたがすぐ戻って、雲で少し光度が薄い中、無事林道登山口に戻る。

○12/23 曇り夜小雨「城ヶ森山」7:10~11:15(4:05)R371より白馬基幹林道を少し入った林道口より往復。(薄暗い中近くの護摩壇山を登山口より往復して明るくなるのを確認。)斜面を登り稜線尾根を南西方向に進む。三角点八幡谷経て進み、林舗道出合い。上湯川岳登山口より急坂登ると(上湯川岳:有田町の最高峰)山頂。樹林の中のピーク。急坂下り林舗道出合い。林道歩き、右の尾根に取り付き、テープ等頼りに進むと城ヶ森山山頂9:10。一等三角点、隣に雨量観測所が聳える。来た道を淡々と歩き、右下の林道に木材運搬トラックが通り、奥まで林道行けそうな感触を持って戻る。

○「水ヶ宝形山」12:15~12:35(0:20)白馬林道を奥へ進み水ヶ宝形林道ゲートより往復。林道進み、尾根を進むとすぐ水ヶ宝形山山頂。土に埋もれかけた二等三角点ある樹林の中ピーク。

○「白馬山」13:20~14:15(0:55)山の所在不明で、やむなく、それらしき山見えるので、探索。白馬林道から枝林道ゲート経て、林道進むと広い土場。奥に道あり、植林した下を通り終点。止む無く左の尾根へと急坂登る。尾根に境界標あり、それを辿り、倒木を迂回しながら進むと何と白馬(シラマ)山山頂13:40。幸運に感謝。二等三角点、樹林の中の平坦な山頂で、山々の眺めあ

り。来た稜線を境界標を辿り、倒木を迂回し戻るとそこは、入り口ゲートを入ったすぐ脇で茨・3つのピンクテープがあった。

○「生石ヶ峰」16:05～16:35(0:30)生石高原駐車場より往復。観光客が多い施設脇を経て、ススキの中の道を2段越えて進むと生石ヶ峰山頂。一等三角点、平坦な芝の広場の山頂で、360度の山々の展望を楽しむ。

○「堂鳴海山」19:35～21:10(1:35)R19の町境界より往復(堂鳴海林道で探索し1時間ロス後に)。コンパスで方向を確認しつつ急坂登り、テープ等目印に進み、作業道。方向確認し急坂の植林地を南へ、登ってゆく。上へ上へと霧雨の中、進む。平坦になり進むと堂鳴海山山頂 20:20。三角点あり、平坦な植林地の中の山頂。戻りは、最初境界標見たがあと不明で、方向を北にコンパスで使いつつ降りていき作業道に出て少し安堵。さらに北へ下り降りたところが沢筋。違うと北へと進むと急坂で登ると林舗道。R19の少し下に出た模様。坂を登り無事町境界の駐車地に戻る。天候が、年末年始厳しそうなので、無理やり、急いで歩いた2日間の大遠征。今回はここまで。

○12/1(土)2(日)兵庫西4山 晴れ

○12/1「暁晴山」9:05～10:15(1:10)峰山高原ゲート口より往復。工事で駐車場使用不可のため、ゲート口に駐車し、舗道進み、すぐ左の丘を目指し登り、先に下ると再び舗道。はるか先に目指す山が見え、林舗道進み、左のゲートに入る。舗道進み、途中より左の尾根に入り、進むと間もなく、電波塔、その先に暁晴山山頂。晴れ、一等三角点、芝の丘の山頂で朝日、ススキ、冬風が心地よい。宍粟50名山で360度の大展望楽しむ。来たルートショートカットし、シーズン前のスキー場を眺めつつも戻る。

○「黒尾山」11:50～13:30(1:40)曇り 林道黒尾山ゲート(R546野々隅口)より往復。林道は、伐採作業が終了し整備され歩きやすい中、淡々と進み、沢口の登山口。ここから山入。整備された道を登り進むと尾根。そのまま坂を登ると黒尾山山頂。先客あり挨拶。二等三角点、方位盤ある宍粟50名山。旧電波塔のある丘の山頂。霞むが山々の眺め良い。来た道を淡々と戻る。

○「船越山」曇り 14:55～17:05(2:10)瑠璃寺駐車場より往復。遅い出発で、有料駐車場より林舗道を瑠璃寺を経てモンキーパークへ。同園は休業だが、管理人がおり、駐車料支払うと共に、山への道の状況教えてもらい、下山開始時刻も教示を受ける。広い林道進むも徐々に崩壊が始まる場所を通過。そのため、川を行ったり来たりし、倒木等の大崩壊を見ながら、高巻う回路を経て進み渡渉すると再び林道。旧作業小屋から林舗道現れ歩き易くなり急ぐ。水流確保の堀を経て淡々と登って千合地峠の十字路。右へと作業道を進む。右に峠への下り表示の出たところから山入り。茨に注意し左が防鹿ネットの急坂進むと船越山山頂 16:00。三角点あり、北側の展望がよい、伐採後保護ネットのある丘の山頂。丁度云われた下山時刻で、急ぎ足で来た道を下る。モンキーパークで鹿の群れを見て、暗くなる前に無事駐車場に戻る。

○12/2「雪彦山」晴れ 5:25～8:40(3:15)キャンプ場登山口より周回。日本三彦山の一つですべて踏破。時間の制約で、暗いうちにライト付け出発。尾根の急坂を確認しながら徐々に高度を上げる。出雲岩を経て途中から明るくなり、急坂のロープ・鎖付きの大きな岩岩を慎重に手・足掛かりを探り、登ってゆく。覗き岩・狭い大岩の狭い空間を抜け岩を攀じ登り進むと(大天井岳)山頂。昔は、この近くの岩峰群(4つ)を雪彦山と云った謂れ表示あり。岩々の山頂で眼下に出発地等が見え高度感を楽しむ。急岩坂下り、稜線を日の出拝みつつ進む。植林地の坂を登ると雪彦山山頂 6:30。三角点あり、樹林の中の平坦な山頂、快晴で静か。連峰のピークが先にあり、先へと進む。一旦下り、分岐より登り返し進むと(鉾立山)山頂 7:30。朝日あり、北側の眺め良い稜

線の平坦なピーク。来た道を下り分岐より、ドロカベコースへ。急坂を慎重に下り進み、尾根道と合流。植林地を経て下ると岩々の沢。慎重に下ってゆくと虹ヶ滝の岩ガレ場。慎重に下り登り返したピークで2人の岩登りの若者に出会い挨拶。下りつつ、右側を眺めるとなるほどとうなりそうな岩峰が聳える。岩々道を下って、雪彦川砂防第二ダムを経て、登山届を出した登山口に戻る。大パーティや幾つものパーティーが、好天のもと、生き生きと山に入っていく姿に出会い、かなり人気の山であることを実感。今回の遠征はここまで。

歩く○11/23(土)～25(日)紀伊半島南部大遠征シリーズ第3弾

○11/23 和歌山南1山「悪四郎山」14:00～16:55(2:55)晴れ 道の駅中辺路より往復。熊野古道を進み、逢坂峠。さらに進み、テープに誘われ、尾根下り林舗道を経て1Pに登るが何も標識ない。引き返し林道に戻り先に目指す山見つけ、稜線鞍部に登るところまで下り、小藪の急坂登り古道に復帰。一里塚跡、古道 NO18 先の古道表示板の尾根をテープ頼りに進むと悪四郎山山頂 15:50。二等三角点、樹林の中、南側の眺めが良い平坦な山頂。遅くなり、来た道より古道に出て急ぎ足で暗くなる前に戻る。古道歩きの人が結構多いことを実感。

○11/24 和歌山南2山 晴れ「百間山」5:20～8:55(3:35)渓谷登山口より周回。谷を避けて右の林道を淡々と進む。工事中で登山口等確認できず、ドンドン進む。蛇腹ゲートを経て進み、左の林道に入り稜線見える林道南端より獣道へ。ススキ・茨・灌木を分けて、上へ上へと進む。稜線と似たところが林道で無事に出て左に進むとすぐ林道終点の千体仏。近くのピーク等確認し、案内表示のとおり下ってゆくと百間山登山口。階段・急坂・笹路を経て百間山山頂 7:30。三角点、あり、朝日・風が心地よい。笹・樹林の中の平坦なピークで法師山等山々の眺め良い。登山口に戻り、渓谷歩きにトライ。踏まれた道を進み、大きな岩々を経て道を探しつつ下る。枯れ沢が、途中より水の流れが出て、いくつかの滝を楽しみ、林間道を経て登山口に戻る。

○「嶽山」11:00～14:30(3:30)和田登山口より往復。前回探したうちの一つに登山口の表示あり、そこから渡渉し旧家屋を経てテープ目印に進む。途中から急斜面の連続。蟻の戸渡りを経て烏帽子岩分岐。直下まで行くが、手掛かり少ない急斜面岩で断念し、案内どうりう回路へ。この道もトラバースし急斜面を登るもので、慎重に進む。急坂・岩を手・足をフルに使ってよじ登ってゆく。すると両側切れ落ちている岩尾根(馬の背)。慎重に少し下り気味に進む。先も急坂登りで進むと嶽山山頂 12:40。三角点あり、樹林の中の山頂。快晴で山々の展望楽しむ。久しぶりに気の張った山登りで、少々疲れ気味。下りも慎重に下って行き、烏帽子岩分岐を経て終盤にどこかで道を間違えて絶壁に出て少し引き返し道迷い。あと少しと急斜面を慎重にトラバース気味に下り、祠のあるところに出て間もなく平地となり、道に出て見覚えのある橋(登山口の上流)に出る。少し南に林舗道歩いて、登山口駐車地に戻る。

・(狼タワ山)15:35～18:45(3:10)野竹法師を目指すも、間違えて伐採後植林地の先にある狼タワ山(三角点あり、樹林の中の平坦な山頂 16:00)。表示なく付近を行ったり来たりし日没で暗くなり、下りに道迷い。何とか稜線に出るも、来たテープのあるガレバの道は探せず、尾根を下り、表示で山名を知り、すぐ林舗道に出てさらに下って駐車地に戻る。

○11/25 和歌山南2山、奈良南1山「野竹法師」8:35～12:15(3:40)林舗道(四辻大杉林道)登山口より往復。今朝も未明から間違えた方向で山探し(3時間徒労:山仕事の人に山を聞くも不明。沢の反対側にキレイな山容のそれらしき山を確認)。広い空き地の駐車地から戻った左側に登山口表示見つけ、山歩き開始。伐採作業の音を聞きつつ、椿山峠。稜線を登り・下りを繰り返し、テープ等案内頼りに尾根を進み(ゴンニャク山)山頂 9:45。樹林の中の平坦な山頂。ここで熊野から来た3人のパーティーに挨拶し、他県ナンバーの車の人がどこに行ったか心配したとのこと。山

話を一休み。先の3人の後をアップダウンしながら稜線を進んで追いつき、念願の野竹法師山頂 10:30。二等三角点、北側が開け山々の眺めが良い平坦な山頂。晴天で気持ち良い。3人に地元の山の話を教えてもらい、次の笠塔山も登山口情報を教えてもらう。お礼を云って先に下山。途中遥か下の沢口より登って来た方に挨拶し淡々と稜線を進み戻る。

○「笠塔山」13:50~16:45(2:55)笠塔トンネル北の橋の林道ゲートより往復。教えて頂いたルートでトライ。林道は落石等で通行止め。ゲート経て進むとすぐ大崩壊で道が陥落。大きな巻き道を取らずに、際どく最短のルートで先の林道に出て進む。コンクリ舗装で大丈夫な道もあるが、大水で削られたり、倒木・落石が続く林道を進み終点 14:15。テープ等あり、それに従いつづら折れの道から踊り場経て急坂登ると別の林道(尼ヶ峰・坂泰線)。方向不明で、テープの示す右方向へ進む。間もなく切り開きの急斜面のコンクリ壁に階段を見つけそこより登るとまた急斜面の植林地。赤テープあり、目印に覚えておく。急斜面を右よりに進み植林地とネット保護の境界。黄色テープ。ここを境界に沿って急坂・茨を分けて進むと本道に合流。目印付け、高度確認。本道を右に進んでいくと間もなく笠塔山山頂 15:25。来れて大満足(役場問い合わせでは、森林公園登山口は10年前の崩壊に加え、今秋の台風で登山道は進入無理との電話確認)。二等三角点、樹林の中の山頂で快晴。近くに電波塔あり、そこから西方の紀州灘の陽光の輝き、山々の眺め楽しむ。来た道戻るも、本道からの入り口不明に。止む無く目検討つけて入り、植林地を来たらしい方向へ急斜面を慎重に下り、目印の赤テープ確認し無事急崖斜面のコンクリ階段を下る。林道経て来た尾根道を淡々と下り林道終点。紅葉を楽しみながら下り、最後はショートカットして、大崩壊地の手前でR371に出て戻る。

○「安堵山」19:05~20:40(1:35)林道(龍神・本宮線)登山口より往復。偵察で果無山系を探索。林道から山が近いことから夜間登山。丸い月明かりに助けられ、林道進み、稜線歩きと繰り返すが、山頂不明。かなり先まで行き、やむなく稜線を引き返す。高度がピッタリ当てはまったところが安堵山山頂。三角点あり、樹林の中の平坦な山頂。戻りは、稜線下り、すぐ林道に出て、稜線歩きしなかったコンテナ建物の近くの場所だと確認。林道を丸月を楽しみながら戻る。

今回はここまで。往復2千kmの超々ロングドライブ山歩きもこの辺りが限界か？。

○11/17(土)18(日)兵庫西3山

○1117「須留ヶ峰」14:00~17:00(3:00)林道橋分岐より往復。曇り 雨止み林道進みそのまま、沢筋歩き。木橋4つを慎重に渡り進むと滝手前の左岸取り付き。急斜面の道をトラバース気味に高度を上げてゆく。旧林道に出て案内表示で左へ進むとすぐ尾根取りつき。尾根もトラバース気味にテープ等確認しながら、枯れ葉踏みしめ進み、展望地。曇りで視界なし。稜線尾根を急坂等経て進むと(大杉山)15:20、丘の展望案内ある山頂。案内表示はここが山頂で目算が狂う。目指す山はこの先。稜線をいくつかのピーク経て進むと須留ヶ峰山頂 15:40。二等三角点、馬酔木ある丘の山頂。風・雲で視界今一つ。急ぎ足で来た道を確認しながら戻る。大杉山は北側が崖を確認、展望地に出ると少し山が見えてきた。あとは、トラバース道を慎重に下り旧林道、トラバース道、沢の4つの丸太木橋経て戻るもすぐ暗くなった(秋の日は釣瓶落としを実感)。

○「段ヶ峰」18:50~21:25(2:35)時間の制約で夜間登山。生野高原林道のからたに橋口の杉谷登山道より往復。沢沿いの道から分岐を林間コースへ。植林地のつづら折れ道、岩々・急坂経て進むと沢コースと合流。道らしきを確認しながら進むと稜線分岐 19:35。道間違いして戻り北へ稜線をアップダウンしながらなだらかな道を進む。途中獣の光る眼に大声上げ。笛吹き通過。邪魔なよそ者の出現で向うもびっくり。淡々と進み、段ヶ峰山頂 20:10。平坦な山頂で、宍粟50名山。朧月(半月)もすぐ隠れるほど風あり、来た道下山。獣遭遇地等はいつの間にか通過し稜線

分岐。先に山あり、進むとすぐ(フトウケ峰)山頂。平坦な山頂であることを確認し下山。分岐経て、来たルートを確認しつつ、沢・林間コース分岐・ロープ急坂。岩々・つづら折れ道を経て、沢筋のコース分岐に出る。沢沿いを確認しながら下り、橋口の登山口に無事戻り、綺麗な半月に迎えられる。

○11/18「一山」5:45~12:15(6:30)フレストST波賀駐車場より往復。R429 高野峠登山口に両方向共に途中で通行止めのため、東山尾根コース口より入り往復。うす暗い中、出発。高野峠への尾根の降り口不明のため、とりあえず尾根から稜線に出て1Pの4等三角点。東山を目指し、稜線を案内表示確認しつつ進むと(東山)山頂 6:45。宍粟 50 名山。展望台のある平坦な山頂で、朝日の快晴の下、山々の展望楽しむ。来た道戻り、4等三角点経て峠への尾根降り口を探す。遠くのそれらしき山見えて、4等三角点が尾根の降り口らしいと分かり、戻り4等三角点 7:35。テープ・境界標・木の丸印ペンキ頼りに下って、作業道に出る。ここを右に山の方向へ進み、峠はさらに下と考え、獣道らしきを木のペンキ、テープ等を辿り下ると林道。さらに下るも標高がおかしい。林道を上り返し進み終点。木材搬出作業の方に高野峠の方向を教えてもらい、急坂登り返して再び下った作業道に出る。ここで来た道戻り先へ進むもなんか違う。方向を磁石で確認。反対方向に進むところで、方向を北へと来た道戻り、間違い下ったところを過ぎて旧作業道を数か所の土砂崩れ経て進むと R429 高野峠 9:05。体力と時間(1H)をロスしたが一山登山口。ゆっくりと急坂尾根経て4等三角点。体力バテバテで食事休憩。稜線を進み一旦下り、作業道に出て登り返す。急坂をゆっくり落ち葉踏みしめ上へ上へと進んでゆくと一山山頂 10:05。二等三角点、快晴で秋風心地よく、山々の大展望を楽しむ。ススキ・小石のある平坦な広い山頂。高野峠・四等三角点の東山分岐 11:35 経て尾根登山口に戻る。舗道下り、公園管理作業の方に出会い挨拶。固有種の花で有名な自然公園で、花の時期がよく、紅葉も先週が見頃だったとのことで、今日もまだ紅葉楽しめて、お礼云い駐車場に戻る。

4000 名山記 投稿者:渡辺 投稿日:2018 年 11 月 12 日(月)21 時 55 分 46 秒 返信・引用

○11/10(土)11(日)岡山東 2 山、兵庫西 2 山 晴れ これで何とか 2800 名山を踏破しました。

○11/10「日名倉山」14:25~15:10(0:45)ベルビール公園駐車場より往復。階段登り、大きな鐘 2 つの建物経て左端の階段。先の小道を経て遊歩道。整備されたつづら折れの道を登り、緩やかな尾根を進むと日名倉山山頂 14:45。一等三角点、晴天、秋風・祠あり。平坦な広場の山頂。宍粟 50 名山。美作富士・三の丸の名称あり。後山等山々の眺め良い。来た道戻り。

○「後山」15:35~18:00(2:25)キャンプ場口遊歩道より往復。遅いスタートで行けるところまでと出発。船木遊歩道(中国自然歩道)口より山入り。植林地から沢筋の石ころ道をテープ等頼りに進む。大水で岩石のたまり場となりわかり難い道を川上へ進む。2度の渡渉地点経て急な岩場を慎重にトラバースして進む。植林地帯となると広い遊歩道となり、一気に急ぎ登り進む。緩やかとなり、稜線に出て東へ進むとすぐ(船木山)山頂 16:40。稜線上のピークで眺め良い。先の後山へと整備された道を下って行き、鞍部より登り返すと後山山頂 16:55。二等三角点、夕日、快晴、風あり。山々・集落の眺め良い。岡山県最高峰・宍粟 50 名山。丘の広い山頂。夕日沈む時刻で急ぎ下山開始。鞍部へ下り登り返して船木山(宍粟 50 名山)。分岐より南へ尾根下り。植林地の広い道を一気に下り、危険な岩場は慎重に下り、トラバースして沢を渡渉。あとは、ライトをつけ、ゆっくり道らしきを確認しながら、沢沿いの岩々を慎重に下りてゆく。植林地経て登山口。偵察予定が、急ぎ足で整備された道を往復できて満足。細い三日月が迎えてくれる中、無事駐車場に戻

る。

○11/11 兵庫 2 山「三室山」5:10~8:05(2:55)旧キャンプ場跡駐車場より往復。時間の制約で暗いうちからライト点け出発。林舗道経て、砂利林道進み、終点より左の林道へと表示に従う。広い砂利道を淡々と進み、登山口表示で山入り。少し行くと尾根・沢の分岐。迷わず尾根へ。植林地道進むと再び谷道合流し植林地を進む。明るくなり、ライト取り、周りの景色を見ながらつづら折れの道を進む。岩が出てきて、大岩庭園。テープ等目安に左から進み、急坂ロープのある岩に出会う。慎重に登り、笹露でズボンを濡らしながら進む。途中朝日を拝み、笹トンネル等経て進むと三室山山頂 6:55。二等三角点、朝日・小鳥のさえずり、秋風が心地よい。笹・小岩の平坦な山頂で、山々の眺め良い。宍粟 50 名山 NO2。来た道を確認しながら淡々と下る。岩場は、ゆっくり慎重に、後は軽快に一気に登山口。広い林道に出ると紅葉・沢水を楽しむ。コンクリ舗道で登りの人に挨拶し木々の色づく駐車地に戻る。あとは、時間の制約で、2カ所登山口を偵察確認。帰りに笠杉トンネル手前の通行止め林道は車が入れそうなので行けるところまでと進むと笠杉山登山口。

○「笠杉山」11:30~12:00(0:30)林道千町・段ヶ峰線の登山口より往復。晴天で帰るのがもったいないくらいの天候で急遽山歩き。登山口表示より進み、尾根。上へ上へと心地よい天気の中進むとすぐ笠杉山山頂 11:45。三角点あり、小岩集まりのピークで、山々の眺め良く、快晴の天候を楽しむ。来た尾根と枝尾根を再確認しつつ戻る。今回はここまで。

4000 名山記 投稿者:渡辺 投稿日:2018 年 11 月 5 日(月)21 時 34 分 0 秒 返信・引用

○11/2(金)3(土)紀伊半島南部大遠征シリーズ2 金曜日休みで夜間からの大移動(片道 930 km)和歌山南部3山

○11/2「茶臼山」12:00~20:15(8:15)晴れ 登山口不明で雨谷尾根末端小屋口より往復。テープに沿ってがすぐ道不明。シダ草の植林地の道を上へ進むと尾根に出て、境界・テープ等目安に登る。人があまり入らないためか、明確な道不明。岩の急坂・痩せ尾根等経て淡々と進み、(雨谷山:13:40 三角点あり、平坦な植林・広葉樹林境界の山頂)。一息入れ、尾根を上へ上へと登り進む。急坂の岩峰をトラバース気味に登り稜線に目印布付け先へ。いくつか痩せ尾根・ピーク経て進む。目印が途切れ、北に鞍部経て急峻な山。西へ急坂下るも目印なく戻り、急峻な山にとりつくが、崩壊倒木で登りにくく、目印もなく諦め再び戻り思案(0:45 の時間ロス:のちに響く)。山の解説に急峻な山の北側を巻くとあり、鞍部より右裾の獣道を辿り、山向うのコルにたどり着く。再度解説確認し、急な岩峰に挑むようにへばりつき手・足の位置を確認しつつ登り稜線。さらに進むと前回登った西ノ峯と茶臼の分岐。北へ尾根を上り進むと茶臼山山頂 16:10。シャクナゲ・樹林の山頂で、山々の眺め、夕日・小鳥のさえずり楽しむ。遅くなり、急ぎ下山。来た道戻り、西ノ峯分岐。左へと稜線下る。岩峰は慎重に一步ずつ確認して下り、コルより左を巻いて迷った地点に戻る。さらに稜線下り、目印布の急坂も慎重に下り、いくつかのピークを経て雨谷山に戻る 17:35。暗くなりライト付けて下るも、尾根不明で行ったり来たり、のしどろもどろの下り。いつの間にか道失い、街明かりと磁石頼りに南東方向へと下ってゆく。急坂の岩場に出て焦り始め、同じ標高のところを行ったり来たりで時間ロス。標高がまだ高い(300~400m)ので、止む無く下へと降りる方角を確認し、下るも岩岩の沢に出る。やむなく沢を慎重に下り、急峻なところは高巻きして下り進むと何とか作業道に出る 19:10。どちらが下りか不明で右往左往。やむなく沢筋を再び下り同じような作業道。さらに下ると橋に出て、南へと続く作業道を進むと、林舗道に出て安堵 19:30。ここも方向が不明で右往左往。止む無く下り、R169に出て再び戻り、駐車地へ登り進み無事戻る(0:30 のロス)。明るいうちに行動がベターなのだが……。

○11/3 晴れ和歌山南部2山「大塔山」山頂 11:15「法師山」同 14:55 8:25~16:30(8:05)安川林道・宗小屋橋口より大周回。安川林道進むとすぐ法師山の安川登山口あり。清流沿いの落石を退けた砂利林道を軽快に進む。途中カモシカのジャンピングに出会い面白い跳ね方するものと感心。道分岐を右に下り鉄の橋渡るとすぐ大塔山登山口案内表示。案内に沿って植林地の小狭な急坂を上り進む。急坂登ると1P(905m峰)。法師山縦走ルート。東の稜線を下り、登り返し次の稜線に出て90度方向転換。まもなく(一ノ森:樹林の中の稜線のピーク)。下り鞍部から希少種カミキリムシの生息域案内。急坂登り返し進むと、防風・獣ネットのある大塔山(二ノ森)山頂。三角点あり、山々の眺め良い、平坦なススキの生い茂る山頂、南紀一の高い山、本州のブナの南限の案内あり。一息入れ、法師まで縦走するか思案。来た道を取り合えず戻り、鞍部より登り返すと人の声。三重から来た2人連れに挨拶。法師山から縦走してきたとのこと。山情報・急峻なピークある等の情報教えてもらう。905m峰より縦走路へ。云われた急峻な峰を慎重に登り、ピークよりすぐ登り以上の急降下。ロープあるも当てにならず、木の根・岩等をつかみつつ、緊張して、一歩ずつ確認して下る。あとは、長い稜線をアップダウンしながら進んでいく。途中痩せ尾根等もあるも、テープ・境界標・案内表示に助けられ淡々と進む。法師山安川ルートと合流し大安堵 14:30。稜線進むと下りの地元の人に挨拶し、2段登り進むと法師山山頂。一等三角点、360度の大パノラマ。山々の眺め。陽光を反射する海の眺めを楽しむ。崩壊を防ぐ遺構のある平坦な山頂。来た道戻り百間山への分岐を再確認し縦走ルートと安川登山口分岐に戻り安川口へ。目印のテープ等頼りに、急坂・痩せ尾根を一気に下ってゆく。沢の音聞こえ、植林地帯から吊り橋を経て安川登山口に戻る。すぐ宗小屋橋口の駐車地に明るいうちに戻れた。すぐ暗くなり、今回の遠征は、ここまで。

○10/26(金)27(土)紀伊半島南部大遠征シリーズ1 金曜休みで夜間からの大移動(860 km)
○10/26 奈良南部1山「七面山」12:25~18:35(6:10)林道篠原線(R235)終点近くに駐車し往復。林道終点よりすぐ堰堤。川を遡るも、道不明瞭で戻り、裸足で滑る堰堤川を慎重に進むと旧ゲートで、山への案内表示あり。林道進むと、2カ所程渡渉し荒れている旧林道進む。市に問い合わせしネットにも出ていたH23の大崩壊地の急斜面のガレバを慎重に進む。つづら折れの岩・植物・木・土砂の障害物がほとんどの旧林舗道を淡々と進む。最後は、上に続く林道口に案内表示あり、直進して進むと間もなく七面山登山口。コースタイムでは、間に合わないが、ルートを確認しながら植林地を黙々と登る。尾根の末端に出て迷いは少ないが、木の根・岩々のルートは少し時間がかかる。いくつかのアップダウンを経て笹原の急坂。鹿道がいくつかある中、真ん中の道らしきを笹の下を確認しながら登り、七面山西峰 15:15。荷物をデポしサブザックで痩せ岩等の稜線を下り登りを繰り返して進むと七面山山頂(東峰)15:30。晴れ、微風、陽光心地よい。樹林の中、大岩のある平坦な山頂。来た道に戻る途中から広い笹原と山が見えて、西峰に戻るとそのまま、西へ進む。木がまばらな笹原道を下り、背丈の低い笹原の海に出る。鹿道あり。登り返し奥まで進むと(槍ノ尾ノ頭)山頂 16:10。標識と三角点を確認。樹林の中の平坦な山頂。雲が湧き、小雨も降る変わりやすい天気ですぐ戻る。途中、七面山南側の大絶壁が見れて、この鞍部の笹原共々来た甲斐のある山。登り返して西峰に戻り、荷物回収し遅い下山開始 16:35。急坂の笹路を慎重に下り、再び、木の根・岩の尾根を淡々と下る。尾根末端の案内表示に戻ると薄暗くなり始め、取り合えず登山口までと急ぎ足で植林地を下り、薄暮に登山口。ライトを準備し、旧林舗道下ってゆく。岩・砂利の少ない舗道を探しつつ、途中よりライト付け下る。大崩壊地を慎重に通過し、渡渉はこんなところあったかなと記憶の薄い中、林舗道目安に下りゲート。再び裸足で渡渉して無事戻る。

○10/27 和歌山南部2山 晴れ

○「百前森山」6:35~10:45(4:10)道の駅奥熊野本宮より往復。夜半雨で、午前中雨の予報もあり、ゆっくり目の出発。地元の古老の方の集まりに行き、山の位置を教えてもらい出発。三里橋渡り小辺路へ。バス停留所萩のすぐ北の登山口より往復。階段道、植林地道から東側急斜面の道をトラバース気味に慎重に進み、展望所。先へ進むとシダ道でズボン濡らしながらかきわけ進む。急坂道もシダのオンパレードでシダの雫で濡れながら進む。中下番登山口からのルートと合流し広い道を進む。そのまま進むと道が下り始め怪しくなり、東の峰への急坂登り、本道に合流。カモシカ調査地経て百前森山山頂 9:00。三角点ある、樹林の中の平坦な山頂。青空見え、樹間より眺めあり。来た道を確認しつつ、シダの雨露にさほど濡れずにトラバース道は慎重に進み戻る。道の駅で一息し移動。

○「西ノ峯」12:50~17:05(4:15)小森隧道南口より往復。本来茶臼山まで周回予定が時間なく断念。テープ等の目印頼りに岩々経て、整備された道を登り、水平道を進み、地藏さんのある尾根取り付き。鉄塔・反射板の道をテープ目安に進む途中岩々で道迷う(第一反射板)。さらに登り進む、右からのカーゴ軌道と合流し進み途中南側に進むとそこが第二反射板。テープ経て上へ登り再びカーゴ軌道と合流し、杭道と軌道を行ったり来たりで急坂を淡々と登り、2つのカーゴ軌道合流した終点の稜線。そこから緩やかな稜線を進むと西ノ峯山頂 15:20。三角点あり、樹林の中の平坦な山頂。快晴で、風が心地よい。奥への縦走は可能だが、時間足りず止む無く来た道をカーゴ軌道とともに下り、反射板道経て無事戻る。先へ行けなかったのが、悔しく茶臼山への雨谷山登山口を確認。今回は、帰りの所要時間不明のため、ここまで。

○10/20(土)21(日)兵庫北3山、鳥取東1山

○10/20「但見妙見山」14:25~16:05(1:40)旧キャンプ場口より往復。曇りのち晴れ 林道をショートカットし、植林地を進む。つづら折れの階段道登り尾根。あとは、距離表示目安に登り進み但見妙見山山頂 15:20。三角点、方位盤あり。紅葉見頃で、シダのある平坦な稜線の中の山頂。山々・街の眺めあり、陽光・秋風が嬉しい。来た道を確認しながら戻る。

○「鉢伏山」17:50~19:30(1:40)中腹の林舗道登山口より往復。晴れ 偵察予定で出発。整備された広い階段道を登り進み1P。石のケルンのみで、北西方向に山頂確認。小藪の回廊を低い姿勢で抜けて本道に戻る。急坂階段道を登るとリフト終点ですぐ先が鉢伏山山頂。三角点あり、平坦な広い山頂。月明り(十三夜前日)・風あり、山々の眺め良い。来た道を月明りを頼りに(無灯火で)楽しみながら下山。

○10/21 晴れ「赤倉山」ヤブ山 5:00~6:50(1:50) 兵庫県の公園口への林道は、工事で通行止めのため、反対側の鳥取県側若桜(わかさ)側へ回り、キャンプ場から氷ノ越コースを往復。時間の関係で暗いうちに登山口で届け出を出し出発。獣電気柵潜り、整備された道を距離標識に助けられながら登り、氷ノ山越。ロングトレラン大会日(氷ノ山・扇ノ山周回で72Km、350名参加)で、もうすぐ通過の時間帯とコース案内の方に教えられる。気にせず、鉢伏への縦走コースを左の笹藪の薄いところを探しながら進み、コースピーク展望地の先より藪入り。笹の小藪をかき分け登り、杉の木目安に登り進む。さらに登り次の樹林へ辿りつくと稜線。小藪をかき分け、西側の崖に注意しながらアップダウンして進み赤倉山山頂 6:20。標識石2つある稜線藪ピークの山頂。朝日・山々の眺め良い。東側に道あり辿って下る。途中から先が不明になりつつもドンドン下り、本道出会い 6:30。あとは来た道戻るも、トレラン選手が次々に来る。氷ノ山越え経て下るも、後続からドンドン来て下山に時間要するため、やむ無く選手と同じペースで後をついて駆け下る。トレランコースは、最終手前で街中に下る方へコースが変わるため、そこからはゆったりと歩いて

戻る。

○「藤無山」8:05～10:05(2:00)スキー場西端の林道より往復。林道進みスキー場上部を歩き。再び林道に合流。荒れた林道進み峠終点より案内が出て安堵し山入り。植林地尾根をいくつかのピーク越えて進み、藤無山山頂9:10。二等三角点ある樹林の中(ブナ等)の平坦な山頂。紅葉まだらながら東側より、山々の眺め楽しみ、食事。朝日・ブナ林を楽しみながら来た道を淡々と下り、スキー場の広い眺めに癒されながら戻る。スキー場はプスチック敷ゲレンデでリフト営業(BGMとと共に)・エアジャンプ練習を少し眺めて戻る。今回はここまで。

○10/13(土)14(日)兵庫北4山 晴れ

○10/13「白山」13:20～15:25(2:05)林道ゲート(山岳歴史由来表示案内)より往復。ゲート開け閉めし、林道歩き。広い堰堤一合目表示。旧石段等植林地道を進み、展望台分岐経て奥へ。倒木等ある樹林の中、ヒル数匹が靴につき、動いており、この時期まで出るとびっくりしつつ、愛用の杖で払う。つづら折れの山道進み石段経て旧神社後の白山山頂。陽光心地よい。山々・街の眺め良い平坦な山頂。来た道を確認しながら急ぎ足で下り、神社に参拝して戻る。

○「篠ヶ峰」16:25～35(0:10)地元の方にゲートで林道を教えてもらい車で林道終点よりすぐ篠ヶ峰山頂。電波塔・二等三角点のある山頂。樹林の中、山々の眺めある平坦な山頂。

○10/14 晴れ「笠形山」5:00～7:50(2:50)大鳥居登山口より往復。時間の制約で暗い中、ライト付け、獣ゲート明け出発。荒れた道進み、すぐ林道横切り、笠形神社経て整備された大堰堤の林道進む。終点の東屋より広い林道進み、広大な敷地の笠形神社。姫路城ゆかりの大木跡あり。植林帯を進み、急坂の階段が続く整備された道を淡々と登り進むと1Pの笠の丸。展望良い。下って、別ルートと合流し登り返すと笠形山山頂6:25。一等三角点。朝日・山々の眺め良い。霧にすぐ覆われる。東屋ある平坦な広場の山頂。一息入れ来た道下ると山頂直下にタイヤ痕あり。ここまでと驚く。眺望楽しみながら下り、途中の急階段で2人パーティーに挨拶し、淡々と下る。朝方暗くて確認できなかった道、堰堤、寺等確認しながら戻る。

○「大箕山」9:00～11:15(2:15)八幡神社毘沙門天入り口より往復。昨晚近くでウォーキングの地元の人に確認すると道はないとのことで、入り口のみ確認。道の空きスペースに駐車し集落中の入り口表示より奥へ進み、獣ゲートより直進するとお寺で参拝。奥へ進むと草丈のある旧道。やむなくすぐ尾根にとりつき山入り。植林内の溝の道らしきを目安に上へ上へ登る。分岐らしき目印の古い布見つけ少し安堵。尾根を進み、1P。ここにも分岐に布あり。北西へと稜線を進むと荷物運搬のカーゴ敷と合流。その軌道に沿って上へ上へと登り、急坂経て進むとなだらかになり、間もなく大箕山山頂10:10。三角点と電波塔ある平坦な山頂。山々の眺めあり。別名丹波富士の形の良い山。陽光・風が心地よい。食事し、来たカーゴ道辿り、稜線分岐の布等確認しながら、無事戻る。今回はここまで。

○北海道シリーズ第7弾

○10/5(金)休み 道央1山

「美唄山」8:40～14:50(6:10)晴れ 美唄ダム先の登山口は、道路工事のため、車両通行許可必要。許可ないため検問で車止めさせてもらい往復。登山口まで約4km工事車両等行きかう中進み、登山口で届け出だし砂利林道歩き。滝・なだらかな林道進み、終点より3度渡渉し旧作業道進む。表示より山入り。樹林帯を縫うように高度上げ、急坂経て日本庭園。岩々等の尾根を景観楽しみながら進む。端より直角に東へ下り、鞍部より登り返す。笹のトンネルの急坂を笹・ロープ頼りに登ると稜線末端。北へ直角に曲がり、灌木等分けて進むと美唄山山頂12:00。奥へのルートは見当たらず昔の道は廃道か。一等三角点、秋の陽光・微風心地良い。大雪・十勝・夕張の

連峰、街の眺め等 360 度のパノラマを楽しむ。10 坪程の小灌木の平坦な岩のある山頂。ゆっくり食事後、声上げると西側の樹林帯から子熊らしい鳴き声。静かに来た道に戻る。急坂下りは、ロープ、笹等頼りに慎重に下り、森を楽しみつつ、渡渉し林道終点。付いた植物の種子を取り除きながら林道下り登山口。あとは只管、広い舗装・砂利の林道を歩いて戻る。

・移動に時間を費やして、空沼岳へ簾舞林道ゲート到着が暗くなる。台風の接近でフェリー止まると帰りが危うく、明日朝苫小牧発に予定を変更したため、時間なく、ライト付けて林道進むが、分からない道で少し進むと獣(熊らしき)の声あり、諦めて中止し温泉で汗流す。その後、山を一つ思い出し移動。

○新日本山岳誌以外の山(藻岩山)21:25~21:45(0:20)北海道 100 山。有料道路終点よりケーブルカーで山頂駅。階段登り、屋上が藻岩山山頂 21:30。隣が電波塔で、運航終了間際だが、沢山の観光客(外国人も多い)。有料道路入り口の方は、明日以降天候崩れるので夜景見るにはチャンスアドバイス。その通りの札幌市街の大夜景(日本新三大夜景)・○○の聖地のモニュメント等楽しみ、臨時のケーブル便に乗り、戻る。

・台風接近で今回はここまで。北海道胆振の震災の影響は局所的だが、風評被害が大きい様子。

○北海道シリーズ第6弾

○9/22(土)23(日)道央3山

○9/22「ピンネシリ」9:25~14:15(4:50)砂金沢林道登山口より往復。曇り時々小雨 登山口より先の広い駐車地に車を留めて出発。登山口には幟りが幾つかあり、整備等力の入れようが分かる。整備された登山道をアップダウンしながら進む。倒木回避に苦労しながら進むと、林舗道現れ横切り、いよいよ登り。山ぶどうの葉をいくつも見かけながら、高度を上げ、途中よりトラバース気味に右上へと回り込むと稜線分岐。左へ階段を登ると(待根尻山:マチネシリ)山頂。駐車場の案内に女の山とあり、笹の丘の山頂で目指すピンネシリ等の山々の眺めあり。分岐に戻り、稜線の別登山口分岐経て、急な階段を登り進むとピンネシリ山山頂。一等三角点、雨雪量観測所、祠、方位盤ある平坦な草・笹の山頂 12:00。曇りで風あり、集落・山々・海岸線の眺めあり。一息入れ来た道を確認しながら、残ったヤマブドウ探し・少し色付き始めた紅葉を楽しみながら戻る。

○「黄金山」16:20~17:55(1:35)砂利の林道奥終点登山口より往復。曇り 移動に時間かかり遅い出発。車道から見るとは、北海道のマッターホルンみたいに聳える岩山。登山届を出し出発。時間なく、整備された道を沢を2度越え、脇目もふらず高度を上げてゆく。新旧道分岐を直登の新道を選択し湧き水に勢いをもらい、一気に上へ上へと進む。ロープ、階段、段差のある急斜面も気にせず、突き進む。岩稜帯になると、左右絶壁なため足が少しすくむが慎重に岩を登り、黄金山山頂 17:10。二等三角点、先は行き止まりで南北は絶壁の岩の山頂。風強いが、山々・日本海の海岸線の眺め良い。一息入れ、岩稜地帯は慎重に進み、急坂の下りは、手・足元を確認しながら、ここを落ちると滑落となり、どこまでも落ちていく場所をゆっくり下る。旧道分岐は、早々にパスして下り、緩やかになり少し安堵するも、暗くなりはじめ、急ぎ下って薄暮に戻る。時間の制約なければ、もっと楽しめた(?)山。

○9/23「神居尻山」5:20~7:45(2:25)県民の森神居尻地区Bコースを往復。林舗道を広い駐車場より少し戻り、登山口で届け出し、半券をそのまま、置き忘れて出発。つづら折れ道から階段のある直登コースで、強風で落ちる雨粒を雨と勘違いする中、高度を上げてゆく。急坂を過ぎ距離標識を確認しつつ、尾根を上り下りし、Cコースと合流。一息入れる。雲の中で視界なし。稜線は東側が急斜面で時折ロープあり。急坂階段を黙々と進み神居尻山山頂。三角点・方位盤、石

積みのある、平坦な山頂。霧・小雨・風あり、視界今一つ。早々に下山。急坂階段は慎重に下り、森を楽しみながら淡々と下る。最初の階段付近で夫婦の登山者に挨拶。天候は回復傾向の旨伝え、登山箱に忘れた半券に記載投函して駐車場に戻る。登り支度の3名に挨拶。陽光も顔を出し、青空がキレイ。このあと移動し美唄山目指し林道を車で進んだが、普通の乗用車では、危険を感じ、途中の草刈りされた林道歩きに誘惑され時間ロスし断念。もう一つ札幌市郊外の空沼岳へ移動したが登山口はるか手前で空沼橋の工事で、10/10まで車・歩行者通行止め案内看板あり、断念。今回はここまで。

○9/15~17 紀伊半島シリーズ。奈良南3山

○9/15(土)「櫃ヶ岳」曇り時々雨 14:35~18:35(4:00)R138・森林公園口より往復。登山口表示近くに駐車し、林舗道・集落経て奥へ。郵便配達のパイクが通る道を進み、案内で途中より、左の坂道進み、人家の軒先で年配の方に挨拶。山へのルート・時間を教えてもらいつつ、この天気(今は降っていないが、雨になるとのこと)で遅い時間にと訝られる。林舗道進むと云われた通り雨に。本降りとなり、上下雨具つける。急坂経て旧神社。その奥が櫃ヶ岳山頂 15:45。祠あり、樹林の中の丘の山頂。霧で視界今一つだが、山々のすそ野が見える。近くの山へのルート探るが不明。止む無く東の稜線進む。間もなく、左下に林道現れ、林道に下り、その道を進む。獣の声・姿に里山を感じる。二股分岐を直進し、林道終点より1Pとなりここが山頂かと思うが、何もなく、歩き回るうち、方向感覚がマヒ。立派な目印のある道を下ると、登ってきた林道終点。分岐に戻り、表示確認すると、目指す山は、左の林道。そちらの道を淡々と進み、途中から右に入り、草木分けて進むと(柘ヶ岳)山頂 17:10。樹林の丘の山頂。三角点あり、小雨で視界今一つ。長谷バス停方向へ下山。林道の一般道に出会い、ここからは、櫃ヶ岳方向へ戻る。坂登り、登山口分岐経て、来た林道進むと林舗道分岐で登ってきた道と出会い安堵し、後は淡々と下る。秋の日暮れは早く薄暗い中、急ぎ足でライト点けずに登山口に戻る。

○9/16(日)「頂仙岳」6:00~14:35(8:35)坪内口より往復。暗いうちから登山口を探し回るが、崩壊等での通行止めで、車は入れず。坪内口も登山口案内もなく、橋渡り、右上の広い造成地も登山口らしきなく、止む無く仮駐車し鉄塔の見える山稜へのルート探りに出発。橋を渡り左に。崩壊地の工事道進み、二股より上へ急斜面の作業道登ると崩壊法面工事地。ほぼ完成した工事現場から左の隅にコンクリ階段見つけ、そちらに慎重に取りつき登り、急な階段も慎重に登り進み植林に入る。道らしきあり、辿り進むと天理大ワングルの旧表示を確認し、少し安堵。林道経て植林地進むと広い立派な林道に出る。あとは、その林道登るが。中央に大きな陥没、崩壊で急斜面のガレバ等経て進み林道終点まで進むが、行き先に道ないため、ピークまで引き返す。よく見ると表示が裏返しにあり。その上にも下山案内あり、山入り。右に尾根を見て、トラバース道を木の枝等払いつつ進んでゆく。左に広いヘリコプター着陸地点らしき見て、鉄塔の下。さらに進み、急坂を一気に登ると1P、8:05。柘尾山の表示なし。先へ稜線を登り進むと柘尾辻(避難小屋)8:45。ここまで比較的順調。ここから道らしき進むが、ルートミスし直登して1P。何も表示ないことに気づき、地図眺め、道は下と下るが、道らしきなし。途中、白テープ見え、少しその方向で斜面をトラバース気味に進んでゆく。幾らか進むと境界表示出て、下るとフェンス囲いあり、遠くから鈴の音聞こえ、少し下ると下山者に本道で会う。道迷いた旨伝え、お礼の挨拶し先へ。淡々と平坦地等進み、左に山を見て、裾野のトラバース道進む。平坦地に出て下山者に目指す山の位置を聞くと過ぎて来ているとのこと。位置の確認に先に進み、高崎横手出会 10:45。位置を確認した

道戻り、平坦な稜線より、右の山裾に取りつく。少し登ると目印表示出て、登ってゆくと念願の頂
仙岳山頂 11:00。三角点ある、10畳ほどの平坦な山頂。雲で視界今一つ。一息入れ、引き返さず、
縦断する形で北へ目印頼りに下る。本道出会で位置確認し、後は平坦地で再度道迷いし、来
た道に戻り、ミスを確認。あとは、トラバース道を倒木・ガレバに苦戦しながら下り、栃尾辻
12:35。来た稜線尾根下り、1P。表示なしで地図再確認。南の稜線に向かう。程なく(栃尾山)山
頂 13:10。三角点ある、稜線ピークの樹林の中の山頂。視界今一つ。1Pへ戻り、あとは来た道を
確認しながら、天気が回復して心地よい山歩きを楽しみつつ、坪内の仮登山口に戻る。その後は、
七面山への登山口を探しつつ移動。林道崩壊で車で近づけず、今回は断念し、玉置神社駐車場
まで大移動しキレイな夕日を楽しむ。

○9/17(月)「大森山」4:30~7:40(3:10)晴れ 玉置辻林道ゲートより往復。時間の制約で、暗い
中、ライト付け出発。ゲート経て林道進み、表示に沿って、トラバース道進む。ガレバは慎重に、
落ち枝を払いつつ進む。表示石等に助けられて尾根経て、植林地の急坂を登ると稜線に出て二
股分岐 5:30。稜線は台風での落ち枝を払い進み、ご来光見て登り進むと大森山山頂 5:55。平坦
な植林地の中の山頂。朝日が、薄い霧でプリズムのように幾筋にも乱反射して見え、幻想の世界
みたいでキレイ。一息入れ、来た道戻り、分岐より東へ稜線進むと(太平多山)山頂 6:40。植林
地の中の平坦な山頂。視界今一つ。分岐に戻り、朝の心地よい日差しを楽しみながら戻る。大遠
征(片道 900 km弱)のため、今回はここまで。

○8/18(土)19(日)京都北 1 山、兵庫北 2 山 遂に京都府の山を踏破。

○8/18 京都北 1 山「長老ヶ岳」12:55~17:00(4:05)林道大松線口より往復。林舗道が、洪水
で大崩壊。車は入れず、林道口より橋を渡り、抉られた林舗道・簡易水道管が現れてしまった道・
清流を眺めつつ、登山道分岐へ。そこも川二股の崩壊地で、下山者に教えてもらった尾根林舗
道へ。最初、落石は少しあったが、途中植林地のカーブが大崩れで驚きつつ、その上を進む。こ
こで下山者の親子に会い、登山道の状況教えてもらう。周回の下山で、沢筋の崩壊はすさまじい
らしい。後はさほど洪水の影響ない林舗道を淡々と進み、旧自然公園管理棟。現在は使われて
いない様子。過去整備された階段道を進み、東屋で左へ方向転換。トラバース道進み、下に東屋
が見える地点から左へ方向転換し、幅の広い旧道を淡々と進み、電波塔。さらに四差路経て進
むと長老ヶ岳山頂 14:50。一等三角点、岩・芝の細長い広場の山頂。晴れ、山々の眺め良く、小
鳥・セミの声・そよ風が心地よい。稜線を先へ進み、仏生峠近くまで進み、崩壊が著しい沢筋の周
回道探るが不明で、諦めて林舗道を登り返し四差路に戻り、来た道に戻る。

○8/19 兵庫北 2 山 曇りのち晴れ

○「千ヶ峰」4:30~6:55(2:25)三谷登山口より往復。薄暗い中、ライト点け出発。視界狭いまま、
沢沿いの道進む。滝のところで道迷い。止む無く、一旦引き返し、最初の本橋で歩いている道が
登山道であることを再確認。再び登り返し、滑らかな雌滝を眺め、進むと間違っただけで沢を直進したと
ころで、沢を渡る木橋と先の登山路を確認し正規の登山道へ。雄滝・岩々の沢筋の道・清流を楽
しみながら登る。植林地に入り、急坂を淡々と登って緩やか道。途中、朝日に出会い拝む。先へ
進むとまた急坂で最後は、左への迂回ルート経て登り進むと千ヶ峰山頂 5:50。二等三角点、笠
形山への縦走路の案内あり。細長い平坦な山頂。展望地だが、雲が湧いてきて視界を邪魔する。
朝日・秋風・小鳥の声・雲海を楽しみ一息。来た道を淡々と下る。登りの方、2 人に挨拶し、溪流・

雄・雌滝を楽しみ戻る。

○「竜ヶ岳」7:45～10:45(3:00)林舗道終点登山口より周回。植林地進むと間もなく清水峠。ここを北へ稜線を上り進むと竜ヶ岳山頂 8:40。稜線最奥の三角点のあるピーク。岩・植林地の西側が切り開かれた山頂で、山々・集落の眺め良い。秋風・小鳥の声さわやか。来た稜線に戻り、清水峠。南のピークを目指し、登り返し岩々の稜線道を楽しみながらアップダウンして進んでゆくと(大井戸山)山頂 9:55。三角点あり、樹林の中の稜線の 1P。山々・集落の眺めあり。来た稜線に戻り、東側に見える篠ヶ峰へのルート探るが、明確な道なく、清水峠経て戻る。今回はここまで。

○8/10(金)休み,11(土)、奈良南 吉野山系 6 山

○8/10「百貝岳」13:40～15:05(1:25)晴れ 西コース往復。神社鳥居口に駐車し、急坂林舗道歩き鳳閣寺。地元の方に登山口教えてもらい右奥の案内より、トラバース気味に進み、廟塔を経て登り進むと百貝岳山頂。樹林の中、祠・東屋ある平坦な山頂。蝉声も静か。来た道戻る。

○「扇形山」15:40～18:55(3:15)R48 の集落の案内表示より車で登り、民家の奥の駐車スペースに駐車し往復。始め、登山口方向表示あり、その案内でミニ舗道を進み、廃屋。先へ進もうとしても道不明で不気味。止む無く手前の境界標辿り、獣道らしきを上へ。少し登ると昔の案内らしきあり、それに従い踏み跡を辿ってトラバース気味に上り進む。最後に立派な作業道に出会い、黄色テープ目安に急坂登ると尾根ルートの赤い表示と合流。後は尾根伝いに進む。鉄塔で先への山容確認してはるか先へと尾根をアップダウンしながら樹木の黄色ペンキ目安に進む。1Pで方向不明。そこも、黄色ペンキの方へ方向を変えながら尾根を進む。新しい作業道出会い経て登ると、テープ等目安が出て、間もなく扇形山山頂。二等三角点、樹林の中の平坦な山頂。近くに鉄塔あり、多くの山頂表示板あり、人気の山。kobo trail の黄色テープもあり。来た尾根道を確認しながら急ぎ足で下山。途中キレイな夕日眺め、鉄塔で山頂を再確認して戻る。駐車地で地元の方にお礼述べる。廃屋の先に立派な道があるとのこと。

○8/11 晴れ 吉野山系 4 山「勝負塚山」4:40～10:15(5:35)五番関トンネル口より往復。薄暗い中、坂を登ると五番関。結界門潜り旧道をトラバース気味に、岩・谷を慎重に進み、今宿跡。ここから枝尾根に下ってゆく。春になかったピンクテープあり、尾根からそちらのテープを辿ってゆくと沢に出て後は沢歩きでテントもあり、テープも行き当たりばったりでおかしい。やむなく上へ上へと昇り 1Pに出て位置を地図・磁石で確認。地図上の迷い注意先のピークらしく、大汗で虻・蜂に追い回されつつ、尾根に戻り、緑等の地味なテープで分岐確認。下ってゆき、鞍部より登り返し、枝等分けて進むと勝負塚山山頂 8:00。三角点あり、樹林の 1P の山頂。大峰山系の眺めあり。虻対策に、手袋・園芸用手甲付けて、下り、鞍部よりゆっくり登り返す。分岐に戻り尾根をアップダウンしながら戻る。途中間違った分岐を確認し進むと突然、フラフラ状態に。まずいと腰を下ろし、水補給、口に物を入れて噛む。意識が少し戻り、魔物に取りつかれたのではなく、恐らく熱中症。手袋と通気性の良くない手甲を外す。命取りになりかねない 1 人山歩き。落ち着いてゆっくり、大峰奥駆道の今宿跡に戻る。後は、新道で尾根道下り五番関に出て戻る。

○「天狗倉山」山頂 12:35「高城山」同 13:30「武士ヶ峰」同 15:10 11:30～18:05(6:35)九尾谷林道崩壊通行止め口より往復。林舗道進み、荒れた砂利道進み、終点、何も表示はなく、見ても

わかりにくい山用表示版のみ。先へ道らしきを進み、沢を渡り、急坂のつづら折れの道進み、分岐。右へトラバースの細い道を幾つかの尾根越え進む。途中緩やかな尾根で上への踏み後ありそこを辿ると稜線尾根。左に行き、1P確認。目指すは、反対側の山で戻り、蒸し暑い中、急坂をゆっくり上り、天狗倉山山頂。植林地の中の1P。KOBOトレ黄テープあり。来た稜線戻り、1P経て、下って登り返す。急坂・平坦道繰り返して進むと高城山山頂。二等三角点、樹林の中のピーク。東側展望あり。疲れているが先へ下ってゆく。作業道等経て、林舗道に出る。先不明でいくつか迷い探し、黄色テープの崖に取り付き、登ると道あり。草丈・茨を分けつつ進むと1P。方向不明で左へ進むと下ってゆきおかしい。疲れた体にムチ打ち 1P戻る。先の南へ草丈かき分け進むと武士ヶ峰北峰山頂。先は藪と思いきや、地図ルートには道あり、南へ下り上り返し進む。平坦なところで先不明。先への道に小さな南峰の表示板確認。武士ヶ峰山頂。平坦な樹林の中の山頂。急ぎ足で、北峰経て、林舗道戻る。ここからの上り返しが厳しいため、ゆっくり、継続歩きできる短い歩幅歩きで淡々と登り、高城山山頂に戻る。一息入れあとは、淡々と下り、最後の1Pへの上り返しもスローで。1P戻り、ここからの決めていた尾根道を下る。立派すぎる道で、元の道に出るか不安。止む無く途中より左へトラバースして道を探ってゆく。いくつかの尾根経て緩やかな尾根に出会い、登った尾根と確信し下り、トラバース道に出会う。細いトラバース道をいくつもの尾根越え進む、下への道探る。飽きたところに、下への細い道確認し、その道を下ってゆくと、沢を経て林道終点。奇跡のような山歩きを実感。荒れた林道・林舗道経て無事に戻る。

今回は帰りのお盆渋滞を考えてここまで。

新日本山岳誌以外1山

○8/4(土)岩手中部岩手山連峰(茶臼岳)曇り時々晴れ 御神坂口より大周回 5:40~18:30(10:50)約19km 岩手山花の調査で、花を確認しながら歩く。コース 御神坂口の樹林帯経てガレ・溶岩のいわば経て鬼ヶ城分岐。鬼ヶ城の溶岩岩の尾根を緩やかに下り切通 11:00。下って分岐よりお花畑・お釜湖・御苗代湖経て、樹林帯をトラバース気味に草丈を分けて進み、急坂登ると屏風尾根・大岩 13:45。尾根進み平傘不動小屋。西側裏手に岩山あり、踏み跡辿り、岩々を慎重に登ると茶臼岳山頂 14:40。溶岩岩のある平坦な山頂で岩にボルト1つあり。曇りで岩手山の裾野が見え、風あり。急坂登り、お鉢。左へ進と間もなく岩手山山頂 15:30。風強く、雲で視界今一つ。お鉢巡りし不動平経て鬼ヶ城分岐経て戻る。

北海道シリーズ第4弾 7/28~8/1 夏休み その2

○7/31(火)道北2山 晴れ

○「ウエンシリ岳」5:10~8:35(3:25)氷のトンネルコース往復。キャンプ場より入山届出し出発。樹林帯の急坂を登り進む。ダニ過敏で、白いズボンを休みごとに確認しつつ登る。直登の急坂・岩場を慎重に登り進めると緩やかな道へ。アップダウンし進むと山容が見え、淡々と坂を登るとウエンシリ岳山頂。一等三角点、東側の展望良く、朝日・風が心地よい。ここでもダニ過敏でないか確認。先の縦走路に進みたいが日差しの強さとダニの怖さで断念し来た道を急坂・岩々は慎重に一気に下る。登山口はすでに暑く、次への意欲薄れ、橋の下の沢を歩いて涼を取る。移動中も酷暑のため、昨日と同じく、ゆっくり食事休憩(白滝道の駅)。

○「平山」12:55~16:55(4:00)道の駅でルートあることを教えてもらい、砂利林道(9km、0:45)をゆっくり進み一般車駐車場(車なし)より往復。林道登りすぐ登山口で車3台確認。入林届出し、炎天下濡らしたタオルを頭にかけて帽子を被り出発。樹林帯進み、パイプ橋をいくつか渡り、沢沿

いの岩岩歩き。途中、ガレもあり慎重に登って行く。下りの3組に挨拶。いずれも女性パーティー。二股の雪渓より高山植物が見頃。リュウキンカ・キンバイ等々。稜線に近づくと風の通り道か強風。分岐より左へ。ここでも花は小さいが、シオガマ等高山植物眺めつつ平坦な道を進み平山山頂。ハイマツ等の草原の平坦な山頂で、東側の山々の眺め楽しむ。西側は雲の中で、大雪山系も。来た道を分岐迄戻るとまた強風で先への稜線歩きは断念し下山へ。高山植物を確認しつつ、雪渓末端の冷たい雪解け水を楽しみ、淡々と戻る。

○8/1(水)道北1山 小雨・曇り

○「イルムケップ山」5:35~10:00(4:25)登山口不明で、エルムダムゲートより往復。ダム下へ向かい歩いていると雨が降り出す。上に雨具付け進み、ダム下の先に道なく、分岐に戻り、ダム上へ。ダム(ロックフィル式)上の砂利敷の道を奥へ進み、道探すが不明で戻り、事務所近辺で林道探すがなく、再度奥へ進み。草道のそれらしきを辿り進み旧林道と出会う。赤布目印付け、林道を左へと登って行く。削られた林道進み通行止めゲートの先で十字路出合い。登山口の案内表示あり、安堵し、広い林道を登って行く。登山口に到着 7:20、入林届を書く。道を進むにも笹が覆い無理。やむなく、案内のある旧登山道・歩道分岐へ林道をトラバース気味にアップダウンし進む。飽きた頃に歩道分岐に出会い山へと登って行く。笹を避け、木・岩等表示を確認しつつ、上へ上へと登る。最後は、大きな花の細い道を描き分け進み、イルムケップ山山頂 8:10。三角点あり、笹草地の平坦な山頂で、風強く小雨。視界も今一つで、すぐ来た道を下山。ダム湖に出て、ゲート経て戻る。街に出ると天候回復し、昨日と同じ暑い夏のため、あとは、次のルート確認のみ。今回はここまで。

北海道シリーズ第4弾 7/28~8/1 夏休み その1

○7/28(土)道北1山

「礼文岳」9:25~11:50(2:25)内路登山口より往復。晴れ フェリーとレンタサイクル利用。バスの時刻待てず自転車で移動。登山口より、強い日差しの中進む。樹林帯で森林浴しながら1P。下山者に挨拶しながら急な狭い坂を登ると礼文岳山頂 10:40。一等三角点あり、強風で、北側の岬見えるが南側は雲がかかる。登山者何名かあり。来た道を軽快に下り戻る。強風に抗いながら、潮風、潮騒・海に浮かぶ雄大な利尻富士を眺めつつフェリーターミナルに戻る。

○7/29(日)晴れ 道北3山

○「ピンネシリ岳」4:10~7:30(3:20)道の駅ピンネシリより往復。鳥居をくぐり、階段道から整備された登山道の樹林帯を進む。歩き易い緩やかなつづら折れの道を進み、尾根を経てピネシリ(敏音知)岳山頂。二等三角点あり、三吉神社奥社拝む。朝日・風・小鳥のさえずり心地よい。まだ、ダニがおり、数匹払う。奥の山へ道あり、刈り払いされた道を進み山頂(松音知山)踏み、来た道を淡々と戻る。途中サンダル履きの親子に挨拶。

○「函岳」10:30~10:50(0:20)車で砂利林道 27 km、1時間強走り、車は埃だらけで、函岳ヒュッテの広い駐車場。歩いてすぐ函岳山頂。一等三角点、大岩・崖(北東)の平坦な山頂)。気象観測施設あり。晴れて山々の展望良い(利尻富士・大雪山系等)バイク始め訪問者多い。

○「ピヤシリ山」14:25~16:25(2:00)スキー場から続く林道を車で進み、林道ゲート口より往復。

強烈な日差しを後ろから受けゆっくり広い林道の坂を進み、小屋経て笹小路進むとピヤシリ山頂 15:00。一等三角点・方位盤ある広場の平坦な山頂。大雪山系・利尻富士の眺めあり。先のピーク迄進もが何もなく戻る。

○7/30(月)道北2山(今回のハイライト)

○「ピッシリ山」4:15~11:30(7:15)昨日道を苦勞して探し下見したピッシリ山登山口標柱(山頂迄9.5km)口に車留めて往復。林道進み登山口で入山届。沢を渡り、平坦な樹林帯を倒木を避けながら奥へと進む。長い坂道を登ると絶好の朱鞠内湖の展望地で一息。先はガスがかかっている。樹林帯を抜け、アップダウンして進むと(釜ガ淵岳:三等三角点)山頂で一息。稜線のアップダウンを繰り返して進み、(熊岳:表示板のみ)山頂。平坦な稜線のピーク。一旦下り、登り返して痩せ尾根の高山植物帯でトラノオ等眺めて(強風)、刈り払いされた道を進む。一旦下って大きな笹原を経て強風の急坂進むとピッシリ山山頂 8:20。一等三角点、広場・草原の平坦な山頂。晴れているが風強く、虫も多い。来た道に戻る、途中、日本海、朱鞠内湖の眺め楽しみつつ、下る。平坦な樹林帯で倒木処理・草刈り作業の3名の方に会い、お礼述べて挨拶して無事駐車地に戻る。

○「三頭山」14:25~19:10(4:45)政和コースより往復。炎天下で車に虻・ハチが群がる中、5.3kmのコースへ。坂登り、登山届書いて出発。暑いため、ゆっくりの歩み。3合目の水場で、水補給し少し回復しつつも、ゆっくりペース。5合目丸山分岐でも山容つかめず。樹林帯の中、トラバース気味の奥へ進み、ようやく山容明らかに。直下の急坂を上へ上へと突き進む。反射板経ても急坂続き、稜線末端(9合目)に出て、奥に山頂を確認。2P越えて進むと三頭山山頂 17:10。予定以上に時間を要した。一等三角点、草原の広場の平坦な山頂で、緑の山々の眺め良い。下りは急ぎ足で、急坂は慎重に、トラバース道は急ぎ足で一気に5合目分岐 18:25。あとは、樹林帯の中を一気に駆け下る(3合目の水場で一息ついて)ようにして戻る。すぐ近くの温泉で汗流す。ダニ3匹に少し噛まれたのを発見しすぐに除去。

北海道シリーズ第3弾、天候不順であまり登れず(下見・待機)。

○7/14(土)道央1山 曇り「目国内岳」14:10~16:30(2:20)新見峠口より往復。フェリーの関係で遅い出発。整備された道を登り進むと何人かの下山者に会い挨拶。虫多いとのこと。樹林帯より灌木帯となり進むと(前目国内岳)山頂。平坦な山頂で目国内岳の眺め良い。下って鞍部より登り返す。蚊が多くなり、刺されたり、叩いたりの連続(半袖では)。高度を上げ、溶岩の岩々を慎重に登り進み、分岐より大岩を登り進むと目国内岳山頂。大きな溶岩岩の山頂。虫多く、霧で視界今一つ。蚊対策の腕にテッコをつけて、先に行けるところまでと進むもすぐ、顔面に虫の体当たりと視界不良で戦意喪失し撤退。来た道を淡々と戻る。駐車場は、私の1台のみ。岩内のサンサンの湯で一汗流し、その親父さんに明日の天候と岩内岳へのアドバイス貰う。明日は、雨で、風強く厳しいとのこと。

○7/15(日)(岩内岳)4:20~7:15(2:55)オートキャンプ場登山口より往復。風強く、小雨の中、雷電山への行けるところまでと出発。樹林帯の中の整備された道を進み、高度を上げ、8合目で強風をまざまざと感じる。樹林が低くなり9合目では突風で吹き飛ばされそう。ハイマツの影で身支度整え、吹き飛ばされないよう身を屈めて進む。岩内岳の頂上も強風で、風下の岩影でカメラだ

け出し、強風の岩内岳山頂。平坦な山頂。視界なし。すぐ岩場の影に戻り、雷電山へ向かい少し進むと強風の中、眼鏡がすぐ曇り、先の視界もなく、ここで断念撤退。下りも強風に飛ばされないように慎重に下る。途中より、スポットの青空見え、岩内の街・漁港の景色楽しみ、黒雲覆う登山口に戻る。あとは別の登山口・道の駅等で雨降りの天気を待つが、回復せず。

○(和宇尻山)12:55~17:15(4:20)朝霧峠旧道ゲート口で大雨で待機。小降りとなり、長い林道歩き経由で春香山へのルートに仮出発。ゲート経て旧舗道を進む。右への林道ありその方向へ。分岐を確認しつつ上へ上へ進む。稜線に沿って広い林道の砂利道を淡々と登り進む。最初のピーク近くでピンクテープあり、入るが行き止まりで戻る 13:50。先へと林道をアップダウン繰り返して進む。時間切れかと思う頃、旧道(粘土質)確認 14:50。旧道を笹等かき分け進む。最終が行き止まり 15:05。やむなく、近くのピーク目指し、小藪漕ぎ。上へと小藪分けて進むと 1P。何もないので当たりをうろうろ。ピンクテープ確認もルートらしきなし。右往左往しつつ再びピンクテープ眺めると大きな枯れ木の幹の5m程の高さに和宇尻山の山頂標識を確認 15:20。樹林の藪の平坦な山頂。残雪期の標識らしい。先に道なく、春香山への偵察は失敗を確認。藪入りの来た方向目指すが旧林道が見つからず、かなりの時間藪の中を右往左往。標高と方向を目安に探し回り、来た林道見はなし。下山の途中から天候回復し、尾根始まりの鉄塔近くでは、青空も見える中、無事戻る。今回は天候に恵まれない山行でここまで。

○7/8(日)新日本山岳誌以外福島会津西1山 曇り

(富士山)9:10~11:30(2:20)小清水集落より周回。夏山開きに参加。挨拶の後、舗道を下り、漆窪登山口より林道進み、途中より山入。植林地の急坂登ると壱の坂展望台。飯豊連峰の眺め良い。弐の坂経て尾根を進むと富士山山頂。三角点・祠ある樹林の中の広場。磐梯山の眺めあり。記念撮影・社潜り等してゆっくり休憩後ブナ等広葉樹の森を下り林道経て立岩登山口。後は、古戦場・戊辰戦争ゆかりの陣ヶ峰峠で云われのミニ講演を聞いて、出発の集落に戻り、くじら汁、おにぎりを食べて解散(総勢70名弱)。地元の山をゆっくりと賑やかに歩いて満足。

6/29(金)から7/1(日)兵庫北6山

○6/29「郷路山」小雨 18:30~18:55(0:25)道路沿い駐車場より往復。兵庫森林浴 50 選の豊かな森を歩く。山頂は樹林の中の平坦なピークで曇りで視界今一つ。

○6/30「粟鹿山」曇り 4:25~6:20(1:55)少年自然の家より奥のゲート先登山口より往復。薄暗い中植林地を進む。林道を2度横切り進むと展望台。林舗道歩きし施設の上より尾根の境界道らしきを辿って進むと電波塔。さらに萱をかき分け坂を登ると粟鹿山山頂。一等三角点、電波塔のある芝の広場の山頂。雲で視界今一つ。小石の山あり。来た道引き返す。尾根の境界を辿り、展望台から植林地・林道・植林地経て戻る。長靴歩きのため、足に2匹のヒルに喰われた跡を確認。

○「青倉山」7:00~9:15(2:15)青倉神社より周回。神社駐車場より神社を拝み、階段の途中より山ルートへ。トラバース道進み、尾根をアップダウンして進むと青倉山山頂 8:35。反射板・三角点のある細長い山頂で、小雨で視界今一つ。長靴でヒルに喰われ、2匹確認。下りは途中より林舗道に下り、眺望百選碑の眺望を楽しみ、林舗道に戻る。

○「東床尾山」10:45~17:35(6:55) 晴れのち曇り糸井の大カツラ口より周回。沢沿いの道を進みう回路より急坂経て、周りがキンバイの咲き誇る東床尾山頂 11:30。一等三角点、草地の広場の山頂で、山々・集落の眺め良い。ここから先へと足を伸ばしたことが苦勞の始まり。稜線をさほどのアップダウンもなく、淡々と長い距離進み(西床尾山)山頂 12:30。檜林・松のある平坦な山頂で、山々集落の眺め良い。来た道戻るが途中より、直進して在らぬ方向へと下ってしまう。急坂歩いた記憶ないがショートカットしていると勘違いしドンドン下り、沢筋を経て、林道に出て下るとR10の奥山。境界峠まで歩くが、先不明のため、出た道に戻る(1時間ロス)。地元の方に現在地と登山口までの時間を尋ねるとかなりの距離でR10等の道歩いては難しいと教えてもらい、元来た林道より、金鉱跡に出て、上へと獣道進み尾根。境界標あり、上へ上へと登るが体力がきつくなり4等三角点で一休み。近くのピーク目指し上へ上へ進む。何とか頂上に辿り着くとそこは、西床尾山山頂 16:15(3:45の彷徨)。再び稜線に戻って、間違った場所を確認し無事稜線分岐に戻り、直登コースのつづら折れの道を確認しながら、体力の余裕なくゆっくり戻る

○7/1「金香瀬山」4:55~6:45(1:50) 曇り 生野銀山施設駐車場より往復。林道進み、金採掘鉱跡を見ながら終点が登山口。沢沿いにテープ目安に旧道らしいところを進む。伐採倒木地帯に出て旧案内板を確認。直登歩きで、伐採地の急斜面ゆっくり登り進み稜線に出る。右に進むと尾根道の下山案内あり。先へ進むの方向を代え、引き返して登った反対側の稜線へ進むとすぐ金香瀬山山頂。三角点のある稜線のピークの山頂。樹間より展望あり。ヒル1匹確認し除ける。下りは、尾根道・境界尾根を進み最後は、急坂で、木等に掴まりながら慎重に下りて登山口に出て戻る。

○「三国岳」8:55~10:55(2:00) 山寄上コースより往復。ゲートを開閉して、林舗道を奥へと進む。2又分岐も直進すると、尾根末端の登り口らしきあり、そこから山入り。植林地を上へ上へと進む。ヒル2匹確認。この時期山に入ると必ず遭遇しそうな感じ。他のルートと合流し上り進むと三国峠。尾根稜線を進むとも間もなく三国岳山頂。三角点あり、風が強く、日差し心地よい。南東から山々等の眺め良い。山頂まで林道あり驚き。来た道を三国峠まで戻り、千ヶ峰・三国岳縦走ルートの表示(姫大)確認。あとは来た道を確認しながら、淡々と戻る。駐車地でズボン履き替えるとヒル1匹脛に齧りついている。はてと思案し、いつもヒル用に用意していたキンカンを試す時とヒルの周りとヒルにも塗るとヒルは、剥がれ落ち、吸った血を吐いて舗装面をのたうつ。風上より少し観察。キンカンの効果を確認した次第。今回はここまで。

6/16(土)6/17(日)兵庫北部5山

○6/16 晴れ「五台山」12:00~14:40(2:40) 岩滝寺駐車場より往復。獣ゲート開閉し滝・参拝。岩々岸壁への土石堆積等で荒れた工事現場の臨時登山道より山入り。トラバース道をテープ等確認して進み、本来の登山道に合流。沢沿いを進み、一ツ岩・林道・小峠経て植林地道進み稜線分岐。左に曲がり登ると五台山山頂。二等三角点、丸太柱の展望台、広場あり、山々・集落の眺め良い。晴れて初夏の気候・小鳥のさえずり等楽しむ。分岐に戻り反対側の(小野寺山)に登り、方位盤・景観楽しみ、来た道確認しつつ戻る。寺・滝等の参拝者多い。

○「カヤマチ山」15:20~18:30(3:10) 林道ゲート口より往復。偵察で出発。淡々と林道を支線等

確認しながら進む。急坂経て、終点近くで林業作業の方々に会い挨拶。山名告げるが、知らないとのこと。林道ならした終点近くを左の急坂にとりつき、木等に掴まりながら、上へ上へと登ってゆく。左側の尾根筋に出て、登ると峠からの尾根と合流。テープと位置を確認し、尾根稜線進むとカヤマチ山山頂 16:45。二等三角点、樹林の中の平坦な山頂で、陽光、若干の山の景観あり。先の縦走路不明につき、来た道を分岐に戻り、後は、尾根筋を意識し、急坂を下りてゆく。尾根末端に出て峠ヶ谷の表示確認。峠への道は倒木帯で歩くのが困難な様子。林道に戻り、支線(横谷)とカヤマチより続く稜線の山々への登山口等確認し戻る。

○6/17「水山」山頂 7:05「十九山」同 7:40 5:30~9:00(3:30)昨日と同じ林道ゲートより周回。林道進み、寺の坊跡先の尾根取りつきらしいピンクテープと道らしきより山入り。急坂を木に掴まり、慎重に登り進め、尾根末端の境界・テープ等に出て、その境界尾根を辿る。右に遠回りしながら尾根の境界分岐標・方向を絶えず確認しながら、合流点をいくつか経て進む。急坂登り、少し進むと岩柱の目印。さらに稜線進み主稜線を越えて進むと御水山表示の水山山頂。檜樹林と広葉樹境界の稜線のピークで、朝日・風・樹間からの展望を楽しむ。主稜線分岐に戻り、境界確認しつつ下り、トラバース道に出て、下り上り返すと十九山山頂。境界標・テープのある細長い、杉植林地の山頂。先に高い山あり、稜線をアップダウンして進み、三角点を確認し、十九山戻り、南西尾根を降りてゆく。境界標・テープ等確認しながら急坂を慎重に進む。幾つか惑いながらも下り、終点は昨日下見した支線の林舗道に出てすぐ横谷表示の本林道に出る。山入した登り口を確認しつつゲート登山口に戻る。

○「岩屋山」9:40~10:05(0:25)電波塔ゲート前駐車場より往復。ゲート左の尾根道の樹林帯を進むとすぐ岩屋山山頂。三角点あり、新緑が心地良い山頂。大きな電波塔の周囲を一周して山々等の展望楽しみ戻る。先に展望地あり、パラグライダーの飛び立つ起点で、山々集落の展望を楽しむ。今回はここまで。翌日の地震に啞然としました。

6/9(土)10(日)兵庫中部丹南5山

○6/9 晴れ「松尾山」山頂 13:10「白髪岳」同 14:00 12:00~15:00(3:00)住山登山口より周回。茶畑口より、作業道進む。鉄橋を渡り、沢沿いに進む。不動の滝を巻いて高仙寺本堂跡経て進むと松尾山山頂。酒井城跡で、樹林の中の広場の山頂。木漏れ日、小鳥の声が心地よい。登山者に挨拶。下って鐘掛の辻(十字路)経て稜線進むと白髪岳山頂。二等三角点、岩の多い細長い山頂。晴れて風あり、山々・集落の眺めが良い。登山者に周回ルートを教えてもらい、岩々の稜線を慎重に進み、ロープを目安にルート確認して下り、階段道に。樹林帯に入って行き、堰堤に出ると道不明。左端に道らしき確認し、登る人見かけ挨拶して沢沿いを下り、林道に出て、分岐経て茶畑口に戻る。

○「とんがり山」17:30~18:55(1:25)集落抜け林道終点近くよりトライするも、作業道で3Pいずれも境界らしいものしかなく、林道に戻る(1:40 費やす)。途中の右の林道(登りは左側)を進み、三差路を右に曲がり、3Pより南に見えた山らしきが見えその方向を目指す。廃屋を左に見て林道進む。コンクリ橋を渡らず直進し、沢沿いに進む。テープも何もなく不安過るが淡々と沢を上流へ。倒木で進みにくくなり、左の急坂にとりつく。足場を確認しつつ、上へ上へと進み。境界のプラ標識とピンクテープのある尾根に出て安堵 18:05。その尾根を進み岩々を経てとんがり山山頂

18:15。祠あり、山頂標識も2枚、岩の3畳程の山頂で夕日・風が気持ち良く、山々の眺めも良い。本ルートを確認し、来た道を戻る。尾根を慎重に確認して下り、尾根末端より急坂を木を掴み、足場を確認しつつ、さらに慎重に下り、沢に出て、下流に進む。作業道に出て、後は来た道をよく登れたと感心しつつ戻る。

○「虚空蔵山」19:30~20:55(1:25)台風の影響で明日の天候不明のため、夜行登山。陶の郷口より自然歩道を往復。階段道を進み、尾根経て合流点。さらに登り進むと虚空蔵山山頂。風強いが、夜景・星空がキレイ。登りライトなく登り、下りは、ライト点け、来た道・分岐を確認しつつ戻る。

○6/10「西光寺山」曇り 5:00~8:10(3:10)ため池 P より寺坂登山道口より周回。近畿自然歩道の林道進み終点・寺屋敷跡より山入り。細い急坂を淡々と進み、なだらかになり稜線分岐。右へ稜線進み、岩々等経て西光寺山山頂。三角点、祠・東屋・ベンチある広場の山頂。台風の影響か風が強く、雲の切れ間より集落、山々が見える。稜線を戻り周回へと分岐を直進。次の分岐を急坂登るも、ピークは、境界標・精霊碑のみ。急坂慎重に戻り、トラバース道をテープ便りに進み。途中不明となり上の稜線に登り、高い方へ上ると先ほどの精霊碑。やむなく戻り、稜線を進み登ると(加東神山):コヤマ 山頂(加東市最高峰)。樹林の中の山頂。来た道戻り、稜線からトラバース道へ戻り、テープ等確認しつつ進むと、金鶏山西光寺の標識。さらに進むと石垣が現れ、史跡。あとは道不明で、テープ辿り先の加東神山へ再度登り、史跡に戻って沢を下に下ってゆくとテープあり、道も。山道を下ってゆく。途中から道不明で、U字状のセンターを旧テープ等確認しつつ下る。沢に出て、テープがしっかりして安心して下り分岐の林道より本道に合流して戻る。天候不明で今回はここまで。

6/3(日)新日本山岳誌以外 岩手中部、岩手山系2山

○(姥倉山)山頂 7:55(黒倉山)同 8:40 5:50~16:05(10:15)松川温泉口より岩手山の花の調査で周回往復。温泉より舗道進み、登山口。届け出を提出し出発。ブナとミズナラの大木の樹林帯の平坦な道を進む。徐々に高度を上げ、ダケカンバ帯になると視界が開けて間もなく姥倉山山頂。三角点あり、残雪の秋駒・裏岩手連山の眺めがよい。火山ガス注意の標識がある稜線を下り、上りして進み、黒倉分岐。火山礫の道を登ると黒倉山山頂。岩々の山頂で、噴煙上がり不気味なところですが先へ下っていき、切通分岐。ここからお花畑コースへ。残雪を下り、七滝コースと合流し沢沿いに残雪を辿る。鬼ヶ城の方角はわかるのだが、他目印は時々出るピンクテープのみ。踏み後らしきもすぐ不明に。それでも東に上り進むと何とか木道のあるお花畑。そこを過ぎるとまた残雪で道不明。残雪をしばらく進み、急斜面を右往左往し夏道探る。左の尾根に上がると標識・踏み後確認でき、その後はその夏道ルートを辿って急坂登り不動平(避難小屋)。あとは、登山者が多い中、お鉢入り口へ登り、時計回りに周回し何度目かの岩手山山頂 11:40。虫・蜂・蠅が異常に多く、すぐ周回で下山。お鉢口より一気に不動平に下り、小屋を確認し登り返し、御神坂分岐経て鬼ヶ城の岩々のピーク 12:20。花が多いと云われる溶岩岩の稜線を下り登りして下りてゆく。切通分岐よりトラバース道経て黒倉分岐。姥倉山経て来た道をブナ等の樹林を楽しみながら戻る。

北海道シリーズ第2弾

○5/25(金)休み、26(土)道央4山

○5/25「昆布岳」11:15~15:00(3:45)登山口より往復。雨が上がるも曇天の中、出発。広い登山道を合目表示に助けられ、登ってゆく。5合目過ぎに残雪の上から岩のアーチの中に雲と青空が半分づつ見え、「幸せの岩の輪」と思えて気分が高揚。幾つかのピークを経て急坂登ると昆布岳山頂。一等三角点、細長い山頂で、晴れた空の下、残雪の羊蹄山・ニセコ連峰等山々と太平洋の大展望を楽しむ。風の音、小鳥のさえずりの中、昼食後下山。天候が回復し新緑の中、心地よい山歩き。「幸せの岩の輪」は、案内にメガネ岩とあり、下山時、登り坂の下から見ると斜めの岩の輪に見え少し残念。朝方の雨が晴れて心楽しく、下山。

○「イワオヌプリ」16:05~18:45(2:40)除雪回転場より往復。チセヌの天候が目まぐるしく変わるため、イワオ方向を目指す。夏道をR66横切り、ニトヌまで1kmに誘われ斜め上へと登山道進む。すぐ残雪現れ、広い雪面となり方向不明。やむなく斜め横に夏道探しつつ、残雪歩き。夏道を確認し安堵。そのまま進むと(ニトヌプリ)山頂 16:40。小岩・笹の山頂。はるか先に目指すイワオ見える。行けるところまでと急坂下り、残雪で夏道探すもすぐ見付き、広い雪原に出る。先のルートを探すが、夏道不明。止む無く、山の方向(東)へ進む。両側ザレの間の残雪帯を進み、途中より、右の尾根を目指す。藪を越え尾根に出ると夏道の本道見え安心。本道より、急坂の岩々道を登ると稜線。時計回りに風の強い中、進み右端に「イワオヌプリ」山頂 17:30。平坦な何もない火山の山頂で、表示確認。風強くすぐ、周回の下山へ。硫黄の黄色が見え、急ぎ足で周回出発点に戻る。岩々の坂を慎重に下り、小藪抜け、残雪帯に出て、雪原を夏道の坂入り口を確認して進む。来た夏道等経てニトに戻り 18:10、夏道を下る。また広い雪原に出て方向はわかるが、夏道不明となり、やむなく残雪辿り下へ下り、トラバースして進む、上に夏道らしき確認し、本道に戻り、夕暮れ前に無事下山。

○5/26 晴れ「太平山」5:25~10:45(5:20)河鹿トンネル先のゲートより往復。林道・橋渡り進み、左側の道へ。登山箱は覆いかけられたままで今春入山者なしか？登山道進み、残雪道に代わり、辿ってゆく。沢沿いの道進むと先は急斜面の残雪。止む無く、右の尾根目指し、急斜面を慎重に登って行き、尾根へ。目印に赤布付け、小藪、獣道らしきを上へと進む。ここはブナの北限で、ブナ林が多い。進むうち本道に出会い、安堵し進む。残雪で道不明となり、やむなく残雪拾いして進むも、藪が濃くなり、右の尾根に藪かき分け進む。尾根から本道が見え、小藪かき分け本道に出て、再安堵。残雪の力で削られた道を辿って進んで行くが、道不明に。止む無く、急斜面ザレ場を慎重に上へと進み 1P。先に道らしき見え、進むも笹露でズボンと上もずぶ濡れ近くなる。笹のない急坂に出て、服を絞り、下に雨具付け進む。山の斜面を進むと道には、キンポウゲ、チドリ、オダマキ、イチゲ等が咲き、石灰地質の山で花の名山と云われる一端を理解。幾つかピーク経て、先に道の見えない藪帯となる。雨具の上を着て、いざ突入。下に道あり、トラロープもあるも、笹とダケカンバの藪をかき分けての藪漕ぎ状態。笹の丈低くなり、歩きやすくなり、残雪が現れ、残雪を利用して上へ、上へと幾つかのピークを越えてゆく。残雪のない藪帯も下に道あり、笹・ダケの藪をすぐ過ぎる。残雪利用し、右から回り込み、遂に太平山山頂 8:35。一等三角点、笹・小灌木の平坦な山頂。朝日・ウグイスの声、風が心地よい。表示板は割れ蟻の巣となっていた。下りを懸念しすぐ下山。ルート確認しつつ、下りは藪帯もスムーズに下り、濃い藪も下りは難なく通過。ザレのピークからは道らしきもざれて、慎重に下る。植物保護の表示版のピークで一休み。崩れた急斜面の道は、確認しつつ慎重に下り進み、夏道の尾根よりブナ帯。残雪に出て、道らしき辿り、夏道進む。夏道が尾根より沢へ下るところより、来た小藪尾根下り、赤布を回収し、樹林の歩きやすいところを探し沢筋へ下り、戻る。

○「チセヌプリ」13:30~14:45(1:15)昨日と同じ除雪転回場のチセヌプリ登山口より往復。残雪分ける樹林藪をどう通過するかが問題とスキーヤーに教えてもらい出発。先に上っていたスキーヤーが、夏道を探しているとのことで、同様に探すため上に向け登っていると、スキーヤーから夏道発見と声かかり、お礼を云って、夏道進む。すぐ残雪が現れ、残雪帯に出て、上に進むと再び夏道でそこを進む。広い残雪帯が見え、夏道は、左側だが、残雪帯選択し、広い急斜面の残雪帯を淡々と登ってゆく。途中3人のスキーヤーと挨拶。残雪帯の上はまた藪でしまったと思ったが、もう遅い。やむなく笹と這松の藪に入る。大きな岩々あり、そこから山頂見える。左の岩々が近いのに、右の残雪を目指し、本格藪に突入。這松に苦戦しつつも、潜り抜け、笹もかき分けて残雪帯に出る。ただ山頂までももう一つ藪を越えて本道に出てすぐチセヌプリ山頂 14:15。二等三角点、溶岩等小岩のある平坦な広い山頂。アンヌプリ、羊蹄等の山々・集落等の眺め良い。下りは、夏道進み、岩々より来た方向の岩々に這松経て進み、さらに小岩に出て、笹をかき分け来た広い雪原に出る。丁度スキーヤーが3度目にスキーを担いで登て来たところで挨拶。この時期、この広い雪斜面を滑るスキーヤーが多いとのこと。下りは、長靴の残雪滑りを楽しみ、一気に下り、夏道も利用しあつという間に下山(0:20)。今回はここまで。

○5/20(日)新日本山岳誌以外福島中央1山(片曾根山)晴れ 9:10~11:25(2:15)山開き行事に参加。田村市施設グランド駐車場より往復。舗装の坂道を幟、案内の人の導きで、淡々と登り駐車場終点。階段登ると広場・電波塔の並ぶ片曾根山山頂 9:45。平坦な山頂で二等三角点が電波塔施設のフェンス内にあり。山開きの受付し粗品頂き、行事に参列。地域の行政・神社の玉ぐし奉納・挨拶続き、お神酒で乾杯。晴天で、奥の展望台より、残雪の残る磐梯山・安達太良山、吾妻連峰と阿武隈山系の新緑の山々の大パノラマが見れて大満足。有志の鬼に纏わる太鼓演舞見聞し、一気に戻る(0:25)。

○5/12(土)13(日)京都北部(京丹後)6山 5/12 晴れのち曇り、5/13 雨

○5/12「依遅ガ尾山」8:50~10:20(1:30)登山口より往復。強い日差しの中、整備された樹林の中を登ってゆく。地元の夫婦が先行し遅れて依遅ガ尾山山頂。祠と案内版・二等三角点あり。細長い丘の整備された山頂で、海が間近で山々等展望良い。地元の夫婦の方と山話し、来た道を淡々と下って戻る。

○「金剛童子山」11:00~12:20(1:20)味土野口より往復。登山口駐車場より地元のイノシシ罫作業の方に挨拶して山入り。橋を渡り、ざれた道を経て樹林の新緑を楽しみながら進む。水芭蕉は終わりで、稜線に出て祠経て金剛童子山山頂。三角点、小さな避難小屋あり。樹林の中の広場の山頂、山々の眺めあり。来た道を緑陰を楽しみながら戻る。

○「磯砂山(イサナゴ)」13:30~14:45(1:15)羽衣茶屋より往復。林舗道坂進み、登山口。橋が落ち迂回して千段の階段道を登る。羽衣伝説の女池経て、強い日差しの中、階段をゆっくり登り進み、磯砂山山頂。天女の羽衣のレリーフと一等三角点あり。芝の広場の細長い山頂で山々の展望良い。来た道を一気に下り戻る。

○「由良ヶ岳」16:25~18:45(2:20)曇り 宮津由良駅コースの由良山荘口より往復。移動に時間要し遅い出発。獣ゲート経て、掘れた道を進み、植林地帯を旧林道を2回横切り上へと登ってゆく。一杯水で一息つき、さらに登ると稜線の分岐三差路。左へ急坂登ると東峰(最高点)。大き

な社跡あり、由良川、河口、海の展望は絶景で、付近の山々、夕日等展望良い。一旦分岐に戻り、西へと稜線進む。林道出会い経てアップダウンし進むと西峰山頂。西北の海岸線・天の橋立の眺め良い。二等三角点・広場の山頂。来た道を三差路に戻り、北へと道を確認しつつ足早に駆け下り、夕暮れ前に戻る。

○「大江山(千丈ガ嶽)」20:40~21:35(0:55)曇り、明日の天気が怪しいため、車で行けるところまで行き、夜間登山。鬼嶽稲荷神社より往復。ライト付けトイレ先の登山口より階段道経て、樹林の中へ。三差路経て進むと大江山山頂。平坦な草原の山頂で、二等三角点あり、夜景が見える。風あり、方向を確認しつつ、来た道へ。道を確認しつつ、階段は長く感じたが、無事下山。

○5/13「三岳山」雨 5:00~6:35(1:35)青少年山の家・喜多口より往復。出発時小雨パラパラ。寺の犬に吠えられつつ、登山口。階段道経て保安林の整備された道・森を楽しみながら登ってゆく。上佐々木ルートと合流しすぐ、奥社。参拝し、雨への身支度整え、修験者の道は不明で戻り、右奥の祠経てつづら折れの道を上へ上へと進む。風強くなり、事前対応していざ三岳山山頂。雨・風強くなる。三角点ある、丘の細長い山頂で、反射板あり。すぐ樹林帯に戻り、急ぎ足で下る。奥社で一息入れて、後は、淡々と下る。麓では、普通の雨降り。駐車場に戻ると本降りの雨で今回はここまで。この遠征で遂に2700山を踏破。3000名山までかなり長い道のりの状況。

北海道シリーズ第一弾

○5/2~5/5 道央6山

○5/2(水)小樽2山 曇り

○「赤岩山」18:00~18:10(0:10)ゲートが開放され、電波塔まで車で入り、小藪分けすぐ赤岩山山頂。二等三角点の平坦な山頂で小藪の中にあり。

○「塩谷丸山」19:05~21:05(2:00)登山口より往復。今回のGWは、天候に恵まれない予報のため、夜間登山実施。届けを書いて、夕闇にライト付けて出発。広い整備された道を淡々と登ってゆく。獣の気配には声を出しつつ、高度を上げる。、残雪現れ、広い残雪は、方向確認しつつ進み、岩々の道を経て丸山山頂。三角点あり、方位盤、残雪・岩のある平坦な山頂で、小樽・余市方面の夜景がキレイ。来た道を確認しつつ、特に残雪は方向を確認しながら戻る。

○5/3「積丹岳」9:30~18:25(8:55)小雨のち曇り 林道途中より往復。林道を車で進むも、残雪で動けず、止む無くスコップで除雪(30分以上)するうち小雨がやむ。次の残雪は通行できず手前に駐車し出発。程なく管理小屋(宿泊できる施設)で、届けを記載し出発。残雪の広い樹林帯を方向確認しながら、テープ等も確認しつつ、登ってゆく。強風で早めに雨具付けて進む。途中暑くなったりで天候がコロコロ変わる。谷を1つ渡り、進んでゆくと広い雪面でダケカンバが疎ら。稜線を確認しつつ、強風地帯経て、残雪のところを夏道を確認しながら、一部利用し何段かの丘陵を上へ上へと登ってゆく。雲の中に入り周りの視界が乏しい中、急坂の雪面現れ、慎重にステップ踏み登ると間もなく積丹岳山頂。小笹・南面崖の平坦な山頂(12:05)で、三角点あり。雲で視界今一つ。一息入れすぐ下山。来た道辿り広い稜線の雪面で足跡が、不明に。それらしきを下ってゆくと谷あり、来た谷と思ひ渡るが、地形が違うようで、再び戻り、なだらかな斜面下ると見覚えのない竹林が現れ、ここから引き返し渡った沢の先に戻るも、下る地形が見覚えなく、再び戻り、な

だらかな斜面を下ってゆく。末端が植林地帯で作業道。下に降れず、2周探し回るが不明。止む無く、林道の残雪道をトラバースするように進んでゆく。すると林道ゲートと周囲の大きな林業マップ。取り合えず、焼野の沢作業道を下ってゆく。小屋見当たらず、残雪なくなり作業道を下まで下ろうと進むが途中で引き返してゲートに戻る(17:20)。大きな林業図を眺めてそれらしい道へと残雪の林道トラバース歩き。幾つかの沢を経て向こうに見えたなだらかな稜線に近づく。林道を淡々と歩き、赤い屋根の小屋が見えて大安堵(18:15)。下山を記載し、林道下り、無事戻る。反省: 広く長時間の雪面歩きは、絶えず、周りを確認するだけでは、無理か。目印を付ける余裕ないと厳しい。夏道の時に歩くべき。

○5/4「伝説のハイカー編」

○「百松沢山」晴れ 藪山で4月上旬までの残雪期か、夏の沢登り、秋の小藪歩きの記録あるも5月はなし。平和霊園奥の林道口より結果的に大大周回の行動。4:55~14:55(10:00)日の出を経て出発。林道進むとすぐ鉄橋を渡る。林道奥へ進んで行くと川の渡渉点。雪解け水で川の流れ早く、浅瀬少なく、ゴム長でも少し水をかぶりながら1回目渡渉。林道進んで行き2回目渡渉。浅瀬探し多めに水を被りながらも渡渉。林道を奥へと進み、2俣を目印のある左へ。旧林道を上へと進み、道が2つに分かれるところで下に降り、倒木を伝い濡れなく3度目の渡渉。急坂の旧作業道に取り付き、尾根を小藪分け、残雪広いつつ上へ進み 1P。ここからは、雪ない小藪尾根をかき分け、アップダウンし進みやっと雪面の尾根に出て、山頂方向を確認。あとは、只管、残雪を拾いつつ、時折、小藪分け進み広い雪面で方向転換し稜線尾根を進む。急斜面尾根は、右から回り込み、小藪分け進むと間もなく山頂。百松沢山北峰(7:55)ダケカンバ・笹の山頂。太陽顔出し、手稲山・札幌の街が見える。一息入れ南峰へ。残雪拾い、笹小藪分け、一旦下り、急坂登り返し進むと南峰山頂。標石・看板ある狭い山頂(8:20)。北峰に戻り、来た尾根戻るが、右に回り道した急斜面を直接尾根下りしてから歯車が狂い始め、後ろの景色、山頂の景観が微妙に違う。来たと思う尾根を残雪拾いながら下るが、登り返しが多い。登る時、向いの峰に見えた鉄塔が見え、その手前を鞍部に降る。沢源流地で止む無く、残雪の残る沢筋を時折長靴で小沢あるきし、楽しみながら一気に下ってゆく。下流に降るに従い川が広くなり、沢が合流し川近くなりかけたところで、林道終点に出る(10:40)。明らかに整備されている林道で違うところ。ここからの登り返しは、無理と判断し只管林道を河沿いに降る。幾つか支線や橋等渡り、一心に下ってゆく。方向は南のよう。どこにいか不明だが、下るしかない。高度を徐々に下げながら下ってゆくとダムらしきとその向こうに車が通っている。行くうちに通行量もあることを確認しつつ林道口ゲート到着(11:45)。滝の沢林道で、5.5 kmを歩いた。ここがどこかわからず、近くの展望地へ歩き、止まった車の人に近くのバスの通行するところまで乗せて行ってもらうよう依頼。夫婦で最近札幌に引っ越ししてきたとのことで、初めて通る道なので、先ほど通過したスキー場まで乗せてもらい大感謝。札幌国際スキー場(12:10)でバス確認するも、15:15の最終便のみで、タクシー会社に電話をかけてもらうと着まで50分かかるとのこと。止む無く1日1便の最終便で札幌に出るしかなさそう。時間があるので、スキー場入り口近くの道路で、ヒッチハイク。連休で楽しみで来ているせいか、ほとんど通過。スキー場からの帰りの車がたまたま止まってくれ、乗せてもらう。一人でスキー場にきた様子でその帰り。近くのバス停までとお願い。札幌に帰るので地下鉄の真駒内駅まで乗せて載せて大感謝。時折、ヒッチハイクの人見かけるが、場所が悪いと通過してしまうとのこと。今回は1人で来たので乗せてもらえ、家族と来たら無理とのこと。車中色々話をして、福島市出身の奥さんの話もでき、こちら、昔札幌に住んでいた話もできて助かった。真駒内駅まで

送ってもらい、地下鉄に乗り、琴似駅で下車し、乗り継ぎバスで、平和の滝入り口で下車し、程なく歩き霊園奥の駐車地に無事戻る。街中は晴れており、恥ずかしいが、こんな巡り合わせに助けられた山歩きもあるのかと不思議。反省：なんかおかしいと思ったら、原点に戻る勇気も必要。ただ、初めての山が全てなので、行きも帰りもよく観察が大事。この度、車に乗せて戴いた方々に大感謝。

○5/5 曇りのち一時雪・小雨「伝説のハイカー編」

○「神威岳」5:10~10:30(5:20)百松橋口より往復。R230 沿いの橋通行不可で入り口に2台の駐車スペース。先着の1台の方とともに駐車。橋渡り、届け記載し、林道歩き。途中ショートカット道経て林道に戻り、終点近くの崩壊地よりテープ等便りに山入り。樹林帯を抜け、倒木の多い斜面を確認しながら上へ。1P経て、岩峰の聳える山容確認し、尾根伝いに進む。道を間違えぬよう、後ろを振り返りながら、雪面をトラバースしつつ、鞍部に出て、笹が少し被る坂を上へと進む。どうやって上に登るのか道を確認しながら、左から回り込み、急斜面・岩と雪面経て雪がちらつき始めて、烏帽子岳分岐。さらに急斜面の残雪踏み、神威岳山頂。雪降りて、視界今一つ。10 畳程の山頂で、北側は絶壁で東側も。表示板確認し、すぐ下山。分岐・岩・ロープの急斜面を慎重に下り、途中より視界良くなり、あとは、来た道を確認しつつ、林道に出て戻る。途中、若者1人に挨拶。

○「定山溪天狗岳」11:55~16:20(4:25)天狗小屋より往復。小雨で待機し、雨が上がり、日差し出てきて出発。林道を川に沿って下ってゆき、尾根末端の登山口。樹林帯抜け、沢沿いにテープに助けられ上流へ。滝もあり、本格的な沢歩き模様で、高巻きは慎重に上り下り。残雪現れ、そのうち沢が残雪で埋められている谷となり、右側の急斜面・絶壁からの落石等に注意しながら、残雪沢歩き。途中夏道現れ、そのピンクテープ等目安に進む。滝を迂回して上流へ。山頂まで1.5 kmの表示板を確認。その右寄りの沢をテープ等探しながら急斜面の残雪帯を息を上げつつ、進む。途中より、ペースを変えゆっくり着実に上へと進む。途中ピンクテープ不明で、絶壁が前に立ちただかる(約1km急坂雪面歩き)。上へは取り付き無理なため、左の樹木ある方へ雪面を慎重にトラバースして登ると再び夏道に出会う。広い鞍部まで行くと上は残雪の急斜面。ダケカンバあり、活用しつつ、少し柔い雪面にステップを切って、徐々に高度を上げ、踊り場を探し一休み。長靴にショートスパッツ付け、雪入を防ぐ(ここは、不思議とゆっくり身支度し心を静め、急坂雪面登りをP再開し、最後は一気にコルまで登る。風が強くなり、ストックをデポし上へと夏道の急坂登ると定山溪天狗岳山頂。残雪ある10坪ほどの山頂で、表示板あり、一息。視界なく、風もあり、すぐ下山。コルでストック回収し、急な雪面は、コケると一気に落ちてしまうので、右側、岩よりの雪面を岩との間に入り込まないよう、雪を埋めつつ、臆病なほど慎重にお尻を雪に濡らしながら、途中まで下り、ギャップの狭い踊り場に降りてからは、急斜面も平気で、ストック、長靴活用しスキーよりは遅いが軽快に長靴滑り。広い鞍部に出て、夏道歩きして、長い急斜面の雪面もバランス崩さないよう、ストック活用し、あっという間に滑り降りる。あとは、来た沢を、夏道・ピンクテープ等確認しながら淡々と下ってゆく。登山口より、林道歩きは、小雨になったが、淡々と登ってと天狗小屋に戻る。車2台の人もトレラン姿で、雨の中、駆けて戻ってきた(アイヌネギがある様子)。

○4/27(金)休み取り、京都南1山、兵庫東1山 曇り

○「大文字山」7:00~9:30(2:30)地下鉄蹴上駅より往復。京都一周トレイル東山コースを歩く。クライン、日向大明神経て整備された道進み 1P(神明山:縦走路の樹林の中ピーク)。幾つもある

る支線を確認しつつ進み、大文字山山頂。三角点あり、樹林中の平坦な広場の山頂で西側に京都の街並みを一望。平日で数名の登山者に会う。来た道戻り、日向大明神参拝し戻る。

○「ゴロゴロ岳」11:05～13:40(2:35)阪急甲陽園駅より往復。坂の住宅地を右往左往しながら西の方角へ。橋を渡り、学校の脇の坂道を登り進み、黒川古文化研の上の尾根取りつきより山入り。坂道を高度を上げ進むと、大きな岩がごろごろ出てくる道。六麓荘分岐経て進むとゴロゴロ岳山頂。登山者一人おり挨拶。樹林・岩のピークで三角点あり。隣は庭園のある施設で別ルートあり。来た道も戻る。

○(東ノ峰(城山))14:50～18:40(3:50)神戸電鉄箕谷駅より往復。金剛童子目指したが、道間違い、別の山登り撤退。西の住宅地の東奥の水路にかかる簡易橋渡り山入り。沢伝いに進むも道不明。獣道らしき・テープを確認して東の尾根に出る。シダ生い茂る旧道を登っていき 1P(南峰)。北へ進むと分岐で、城山の表示の左へ進んでゆくと(東ノ峰:城山)山頂。樹林の中のピークで、西側の下に祠あり、旧城跡。北の山目指し急坂・岩々下るも、谷深く、岩は絶壁で止む無く東ノ峰に戻り、矢印の方へ下る。尾根歩きし、旧クリ園、カーゴ残骸に沿いに沢に出て戻る。住宅地を西へとルート探し進み橋の先に神社・広場あり、そこから上へ沢沿いに林道進むと旧キャンプ場跡。滝の上の渡渉手前まで行きタイムアップ(17:40)で駅へと引き返す。

○4/28(土)29(日)やまゆき会例会担当で大峰奥駈道を歩く。新日本山岳誌以外1山

○4/28(土)縦走初日、晴れ。10:45～14:25(3:40)吉野から二蔵宿。近鉄阿部野橋より吉野行き 7:50U氏と乗車(当初予定より1本前)。吉野手前の吉野神宮で下車し、HPにあったバスを探すと、バスの運転手は下千本までしか行かないとの情報しかない。タクシーの運転手は通行規制でゲート閉まるので急ぐ必要あると急ぎ立てる。中千本のバスは間引きされ1時間に1本の情報入る。止む無く当初予定の電車で吉野駅へ。そこから奈良交通のバスで中千本下の公園へ。坂道登り、1時間1本の奥千本行きのバスに運よく乗車。10分程で奥千本バス停。大鳥居くぐり、坂進むと金峰神社。登山届け出し、いざ大峰奥駈歩き開始。坂道経て西行庵分岐。平坦な道進むと間もなく青根ヶ峰分岐で坂登ると青根ヶ峰山頂で一休み(11:15)。先へと林舗道進み、四寸岩入り口。日差し強く、少し入り木陰で小休止。名古屋から来た奥駈縦走者と山話。急坂をゆっくり進み、四寸岩山山頂 13:05。縦走者と山話。飯盒でご飯炊きする人にご飯炊きパックがあり便利とのこと。縦走路を徐々に下り、林舗道横切り二蔵宿着 14:25。テント泊等 3名おり、小屋には、リュック 1つのみ。先着順の小屋利用に従い奥にシュラフ広げ場所確保で今夜はここで泊まる。水場に水を汲みに行き、持参したテントで、設営の練習。周りの熟練者から設営等の仕方を教えてもらい、広島から来た人には振る舞い酒を戴く。横浜から来た人に同じテントのため扱いを教えてもらい、夕食後就寝準備。まだ夕日前だが、小屋の中では、新潟から来た縦走何度目かの人、東京から来た大きなリュック(80?)の女性(今日は、大天井ヶ岳登り、五番関(以降女人禁制)へ下り、修験道の道に戻りここで宿泊し、明日四寸岩山より東へ下り、タクシーで柏木に出て阿弥陀ヶ森(女人禁制)へ登り縦走するとのこと)等山話し日暮れ前に就寝(18:20)。翌 3 時頃、満月の月明かり楽しむ。

○4/29 縦走2日目(竜ヶ岳)1山 5:30～15:30(10:00)晴れ テント組(7組?)はすでに出発し、2人が出発準備。すでに明るい中、支度し出発。すぐに日の出となり、ご来光を拝む。急坂をゆっくり進み、旧宿坊跡で一休み。昨日歩いてきた山並み確認。絶好の登山日和。岩の急坂登り大

天井ヶ岳。樹林の道下り、女性含めた団体とすれ違いつつ、五番関。一息入れ、進む。なだらかな道進み、今宿跡で、小休止。未踏の勝負塚山への尾根を確認。岩・鎖坂等経て進むと洞辻茶屋で一般道と合流。茶屋はまだ営業していない。山上ヶ岳に出て、山々の展望楽しみ、縦走路を進む。小笹宿で、お堂と小さい宿坊・小川の水場を確認し大休止・食事 11:20。合間に水源の竜ヶ岳山へ。樹林・柔らかな芝草を踏んで上へ進み倒木の先のピークが竜ヶ岳山頂。表示板2枚あり、樹林の中の平坦な山頂(11:45~12:05)。急ぎ戻り、小笹宿 12:05 を出て進むと阿弥陀ヶ森(女人禁制の門あり)分岐。ここで大峰奥駈縦走路と別れ、伯母谷尾根を下る。伯母谷視で絶壁に足を震わせる。ここで、昨日同宿した縦走の大きなリュックの女性に再会し挨拶。あとは、両側急斜面の尾根を急ぎ足で淡々と下る。長く感じる同じような道歩きで最後は、植林地の水平道進み柏木登山口に下山(15:30)。いざ柏木のバス停へ。急ぎだのは、1本前のバスに乗るためだが、バス停で地元の人にコミュニティバスは、日曜は運行してないとのこと。U氏にバス会社に連絡してもらい、バス停の位置の確認と運行を確認してもらう。何と、上市行きは1日1本。最終が最初で最後の便。R169に出て国道にバスがないかも確認。旧道バス停に戻ると、白髭岳を日帰りにした人がおり、山話。朝1便のみの9:31 柏木駅着で来て、急ぎ足で山を往復して来たとのこと、3年前よりバス便減少等の状況教えてもらう。無事バスに乗り上市駅で慰労の乾杯をして帰阪。

4/7(土)8(日)近畿北部

○4/7 京都西1山、兵庫東2山 曇り時々氷雨

○「櫃ヶ嶽」12:20~14:00(1:40)宮代公民館より往復。林道口に案内あり、林道進み、工事現場経て、沢沿いに道を確認しながら進み植林地経て分岐。ここから西へ折れて尾根を進む。急坂経て櫃ヶ嶽(羊ヶ嶽)山頂。二等三角点、北側の展望良い丘の山頂。太陽が一瞬顔を出す。来た道確認しながら戻る。途中氷雨に遭い、工事現場は迂回して戻る。

○「八ヶ尾山」14:30~15:45(1:15)弁天池手前のつまご坂登山口より往復。つつじ咲く急坂の直登を黙々と登る。途中下山者に挨拶。なだらかになり周り山々の景観が見えると間もなく八ヶ尾山山頂。丘の山頂で 360 度の展望あり。山々の眺め、ウグイスの声、馬酔木の花等季節を感じ、冷気が心地よい。来た道を途中氷雨に遭いつつ戻る。

○「半国山」16:55~18:30(1:35)千ヶ畑のハイクコースを往復。遅い下見気分のスタート。林道ゲートより急ぎ足で進み、送電鉄塔を1つ間違え林道へ戻り、先へと急ぐ。再び鉄塔巡視路案内に山への近道の書き込みあり、そのルートで、沢添いの急坂を進んでゆく。開けた場所に出て進むと鉄塔。先が不明でピークへ出て尾根進むと本道に合流。すぐ山頂への分岐となり、急坂登ると半国山山頂。三角点あり、丘の広場の岩のある山頂。山々・集落の眺め良い。冬風あり、夕日が終わり、急ぎ足で鉄塔へ。沢筋の道を下り、林道に出て安堵。急ぎ足で夕暮れにR731 の登山口に戻る(すぐ近くに、以前登った小和田山の登山口があることを確認)。

○4/8 兵庫東4山 晴れ

○「弥十郎ヶ岳」6:30~8:00(1:30)後川登山口(林道獣ゲートより落石を手で除き、時間がかかりつつ登山口まで車で入る)より往復。すぐに川を渡り、植林地の平坦な道をテープ等のルート確認しながら進む。急坂経て稜線に出て、アップダウンし幾つかの分岐を経て弥十郎ヶ岳山頂。二

等三角点あり、平坦な山頂で北側の山々等展望良い。昨日とは打って代わった好天。来た道をテープ等で分岐を確認しつつ戻る。

○「小金ヶ岳」山頂 9:20「三岳(御岳)」同 10:25「西ヶ岳」同 11:00 8:50~12:20(3:30)R301 大タワより東へ西へピストン。まず東へ。アウトドア施設経て植林地進む。1Pより先に一山見えて、写真撮影の人に挨拶。岩々を慎重に下り、鎖付きの岩々・急坂の岩々経て小金ヶ岳山頂。大展望を楽しみ、方位盤で周囲の山々の位置を確認(多紀連山ふるさと自然のみちの表示あり)。好天で一息入れる。来た道を岩歩きを慎重に・楽しみながら下り登りし大タワに戻る。そのまま西へ。なだらかな道経て、急坂の階段道経て踊り場。さらに登り進むと祠経て中継局のある御岳山頂。地元の方に挨拶し先の西ヶ岳を教えてもらう。天候が怪しくなり始める。稜線を下り、途中2人の登山者に挨拶。分岐経て稜線を下ってゆき、鞍部ぐらいから雪が舞う。黙々と稜線を進み、急坂経て西ヶ岳山頂。太陽が顔を出し、小鳥のさえずりが心地よい。平坦な山頂で山々の展望楽しみ、一息入れる。来た稜線道を下り、登り返して三岳山頂。登山者に挨拶し、急な階段道は軽快に下り、よいペースで戻れた。

3/31(土)4/1(日)近畿遠征

○3/31 京都西1山、大阪北1山 晴れ「地蔵山」12:10~14:25(2:15)四所神社口より往復。参拝し、脇の愛宕山への道を辿る。あまり歩かれてないルートで、獣ゲート経て、崩壊しかけている沢沿いに上へと登ってゆく。テープと植林地境界ネットを目安に、急坂の斜面を登ってゆく。なだらかとなり南北に電線を通る鉄塔に交差し一息。さらに急坂登り、境界ネットを離れ、目印テープの尾根を進むとなだらかとなり峠からのルートと合流。進路を南にとり、西向地蔵を経て植林地進むと地蔵山山頂。一等三角点。樹林の中の平坦な山頂で春風心地よい。来た道を確認しながら戻る。麓で地元の人に挨拶。道が荒れていることは承知の様子。

○「牛松山」14:55~16:45(1:50)国分口駐車場より舗道を南に進み、愛宕神社口手前の舗道を登るとハイキングコース入り口。ここから往復。植林地を抜け、急な坂道を淡々と登ってゆくと樹林の中に三角点のあるピーク。さらに登り進むと最高点の電波施設のある山頂。3人の登山者に挨拶。地蔵山方面の展望確認し来た道に戻る。駐車場付近は桜が満開で花見を楽しむ。

○「天台山」17:55~18:10(0:25)R4 の林道口より往復。妙見山の途中の山で、整備された道進むと電波施設。その先の植林地の中が、天台山山頂。三角点ある平坦な山頂で、展望今一つ。夕暮れ時ですぐ戻る。

○4/1 大阪北3山「三草山」6:10~7:15(1:05)旧妙園寺口より往復。集落の急な舗道坂を進みオノ神峠。ここは幾つもの道の交差点。ここから整備された遊歩道を進んでゆくと三草山山頂。三角点のある広場の平坦な山頂。朝日・キジ・小鳥のさえずりに山の朝を久しぶりに実感。来た道を淡々と戻る。

○「高岳」7:40~9:15(1:35)キャンプ場上の林道踊り場より往復。林道進むとすぐ猪名川不動尊。参拝して登山口より山入り。トラバース道・沢道を進み登ってゆくと鉄塔。あとは鉄塔巡視路の坂を登ってゆき高岳山頂。三角点あり、樹林・岩の山頂ですぐ下に鉄塔あり。山々の展望あり。来た

道に戻る。

○「深山」9:55~10:40(0:45)雨量計道ゲート口より往復。ゲート脇より舗道進み、遊歩道と合流して進むと雨量計測の大きな施設。そこを左から回り奥が、深山山頂。広場・社のある平坦な山頂で、山々の展望良い。舗道を散策しながら戻る。

○これで大阪府の山を踏破。

3/24(土)25(日)京都北山・比叡編

○3/24 京都東4山晴れ「皆子山」8:05~11:15(3:10)平バス停付近より往復。林道ゲート通行止めのため、ゲートより橋渡し、砂利道林道を淡々と進み、寺谷出合。川を渡るに橋無く、長靴と杖2本でバランスを取り、浅瀬探して渡渉。その先は、目印テープ等頼りに、沢伝いに本流を登ってゆく。沢歩きは目印不明なところ多く、目印探しながら進んでゆく。最後はロープのある急坂を奥に回り込んで尾根に取りつき植林地。下りの登山者に挨拶。逆ルートが歩き易いとのこと。急坂登り、別ルート合流点経て稜線。すぐ皆子山山頂。三角点あり、周りは樹林の平坦な山頂で、小鳥のさえずり、朝日、春風を楽しむ。来た道を確認しながら戻る。渡渉は、迷わず一気に渡し、長い林道歩き経て戻る。

・「雲取山」12:20~15:10(2:50)R477 花背山の家口より往復。登山口探して花背高原バス停より林道歩き。旧スキー場経て番号案内を辿り進む。寺山峠経て谷へ下り、緩やかな沢沿いの道をたどり雲取峠。そこから南のピークへ進むと雲取北峰。さて本山はと周りを探すが不明で、稜線を行ったり来たり。少し高いと思われる南側へ下り進むと本道に出会い安堵。すぐ雲取山山頂。三角点あり、樹林の中の平坦な山頂、大原の里 10 名山。山々の眺めあり、植林地近くで、花粉のクシャミが止まらなかったが、落ち着いた後に戻る。本道進むと倒木で道が不明な状況であったことを確認し、峠を2つ越えて戻る。

・「峰床山」15:15~18:30(3:15)峰定寺の大悲山林道ゲートより往復。遅い出発のため、林道を急ぎ足で進む。最初にハイカー2人に挨拶、あとは会わず。川沿いの道を橋を渡し進むと、三差路で山頂までの中間点。さらに行くと俵坂歩道表示あり、橋渡し進むも、林道整備で道不明。やむなく右側の沢沿い進むと行き止まりで急坂に取りつく。奥の稜線めがけて急坂をあくせくしながら登り進むと、林道踊り場に出る。林道を登り進むと俵坂峠 16:50。稜線道進み、林道経て登り進むと峰床山山頂。二等三角点、平坦な広場の山頂で、夕日・山々の眺め良い。日没気にして急ぎ下山。俵坂峠より林道に下り、すぐその下に道が続き、俵坂歩道の模様。トラバース気味の道を慎重にかつ軽快に下りてゆくと道を間違った分岐の林道口で、歩道入り口・三差路経て急ぎ足で夕暮れに峰定寺口に戻る。

○「棧敷ヶ岳」20:40~22:10(1:30)R61 終点・祖父谷林道口手前の鉄塔巡視路活用した登山道を往復。本来偵察予定が、あまりに奥の道なので行けるところまでとライト付け出発。周りをライトで照らし確認しながら急坂進む。沢に出会いから先が道不明。やむなく手前の急坂をよじ登る。ライト電池切れ、新品に交換し急坂むとなだらかななり沢とつながり本道らしきを確認。道らしきを辿り、登ってゆく。開けた急坂経て鉄塔。左のピークに目印探すが不明。歩いているうち小さな山頂方角表示を確認。鉄塔の北側が山頂の模様。鉄塔経て下りなだらかな道を進むと棧敷ヶ岳山頂 21:35。二等三角点、平坦な山頂で、半月・星・街明かり・山々のシルエットを楽しみ下山。鉄塔経て来た道らしきを辿る。右に沢を見て下ってゆくと道らしきが続く、迷った沢口に出て、あと

は、急坂を慎重に下り戻る。

○3/25 滋賀西1山「四明ヶ岳」7:20~8:45(1:25)どこが取りつきかわからず車で右往左往。西塔駐車場より参道・自然歩道経て京都ケーブル山頂駅。目指すガーデンミュージアムは4/14まで冬季休園。止む無く、ピークラしき山頂から大比叡を眺めて参道に戻る。これで遂に近畿圏の滋賀県を踏破。この先は距離的な問題で厳しいが、挫けないで緩やかに進むしかない。

3/17(土),18(日)好天で久しぶりの関西遠征。

○3/17 滋賀西1山、京都東1山「三国岳」12:50~16:20(3:30)桑原橋口より往復。晴れ 前2回夕刻の時間切れ・深雪で断念しリベンジ。今回は入り口から雪なく前回の高島トレイルの起点の道を軽快に登ってゆく。最後は、途中より谷へ。残雪少し固めですぐ丹波越えの稜線。あとは稜線をアップダウンしながら進む。途中、登山者1人に挨拶。なだらかな道を進み三国岳山頂。二等三角点、ブナ林等樹林のある丘の山頂。晴天で琵琶湖・山々の眺めあり。来た道戻る。前回に経ヶ岳と思ったところはかなり手前で先に1山あり、作業道伝いに進み坂を登ると経ヶ岳の表示と祠石あり拝み、来た道に戻る。偵察で次へ。

○「桑谷山」17:25~21:50(4:25)久多峠より往復。最短の道なので、取り合えずと尾根を急ぎ足で進み、鉄塔。先に稜線と西に目指す桑谷山見えてトライ。下り登り繰り返して進み急坂登り進むと稜線ピークの桑谷山東峰 18:00。西の稜線へ倒木・残雪・夕日眺めながら道進み桑谷山西峰山頂。樹林の中の平坦な山頂。山々の展望あり。夕闇迫り急ぎ足で東峰に戻る 18:30。ここからが道迷いの始まり。一本道と思い進んで来たので道らしき進むと鉄塔経て行き止まり。ハテ、何度も同じ道を行ったり来たり。磁石で方角を探すが、歩いている道は明らかに方角違い。急いで来たため、目印確認漏れ。見えていた蓬莱スキー場の明かりも消え、ライトも強が消え小に切り替え、いつ消えるかの不安。予備電池も、使えるか不明。焦りが募るも、東峰と行き止まりの尾根道を行ったり来たり。時刻もいつの間にか過ぎてゆく。稜線の北側斜面を歩いていると見たような残雪帯。ライト消し、電線の方向と北(来た)方向が合致し急斜面だがトラバースして電線方向の北へ歩いていると本道に出会い一安心。あとはゆっくり確かめながら道進み、最初見た鉄塔へ。後ろの光景も同じで広い道下ってゆくと峠より標高が下り過ぎで、鉄塔道を歩いていることに気づき、地図確認し、来た急坂戻り登り返す。鉄塔に戻り、辺りを探し回る。登り急いだため、ルート確認怠る。やむなく三差路の案内を左へと進む。道らしきが続く急坂下り何とか無事に久多峠に戻る。結果3時間も夜の山を放浪。反省①急ぎ働きでも、ピーク等来た後ろの道の振り返りは必要②暗闇は明かりの視界狭く、ライトには限界あり、電池は予備含めてチェック。③地図・磁石を見る習慣・癖をつける。焦るとつい磁石が狂っていると思いがち(たまにそういうこともあるが)今回は2個磁石と腕時計で方向表示見たけれどもどれも信用せず、ただ闇雲に歩き回ってしまった。

○3/18 滋賀西「堂満岳」山頂 8:25「釈迦岳」同 10:10 6:25~11:20(4:55)晴れ 比良イン谷口バス停より大周回。地元の方にルート教えてもらい、比良川出会橋渡り下ってゆき、途中より右へ上り返し、別荘地帯過ぎ山入り。テープ等確認しながら進む。平坦道を奥へと進む。沢沿いに進み、湧き水源流で水を楽しみ、広葉樹の森を登ってゆくと踊り場。さらに上に山あり、急坂道を淡々と進んでゆくと堂満岳山頂。残雪、岩、小灌木の山頂。琵琶湖・山々の眺めよく、朝日・風が心地よい。ゆっくり休憩し奥の縦走ルートへ。残雪が締まり、ピン付き長靴には打ってつけの残雪

下りを楽しみ進むと金糞峠。1P経て下ると北比良峠。登山者1名に挨拶し、縦走ルート進む。残雪歩き楽しみ、電波塔。下山分岐経て稜線進むと釈迦岳山頂。平坦な樹林の中の山頂。一息入れ、直接下れるか不明だが、地元の方が云っていたテープ等ある大津ワングル道へ進む。尾根はさらに琵琶湖方面に続くため途中より西側の谷へ下る。当然道なく、急坂でザレバ・大岩・沢の急斜面を慎重に下ってゆく。崖に挟まれた広い急斜面を確認しながらゆっくり進む。どこまで続くかやや不安になりつつも、進むと斜面が緩やかになり、獣道らしきも出てきて堰堤見え安。、あとは沢沿いを下ってゆくと旧取水のパイプ残あり、さらに下ると本道に出会う。下ってゆくと武奈ヶ岳登山口。アスファルト道下り、バス停比良イン谷口に意外と早く戻れた(釈迦岳より1時間で)。今回はここまで。短い時間でよくここまで歩けたと大満足。遠征距離のハンデ(片道650~700km)は痛い・・・

2/23 休みで 2/23(金)24(土)山行

○2/23 京都南3山

・「鞍馬山」13:25~15:15(1:50)晴れ 鞍馬寺を避け、奥のバス転回所の先より作業道等往復。旧作業道・植林地の急坂尾根進み、稜線 13:50。ここを標高の高い北へ進み 1P。表示と標高確認。間違いに気づき、戻る。途中テープに誘われ西へ進むと植林地で、再度誤り。東側の谷へ下り登り返すと本道。南下するとすぐ鞍馬山山頂 14:35。平坦な植林の中の山頂、明神と経塚を拝み、本道の稜線経て来た枝尾根の植林地に戻る。

○「金比羅山」15:45~17:40(1:55)江文峠口より往復。鳥居より入り、参道進み、神社参拝し急坂の階段等進むと分岐。左へ進み神社経て稜線進み金比羅山山頂。三角点ある平坦な山頂。分岐へ戻り先へ岩・樹林帯の道進むと、(翠黛山:樹林の中平坦な山頂)で、いずれも大原の里10名山。来た道を分岐経て戻る。

○「老ノ坂峠」19:20~21:40(2:20)老坂トンネル上部の峠付近を探索しつつ散策。首塚大明神を参拝。

○2/24 大阪北8山。歩けるところを車で移動して1日歩き回る。

・「明神ヶ岳」7:15~8:05(0:50)堅田トンネル近くの林道ゲートより往復。林道進むとすぐ登山口。植林地・いくつかのピーク経て明神ヶ岳山頂。三角点あり。平坦な樹林の中の山頂。朝日・冬風楽しみ戻る。

○「鴻応(コウノ)山」8:45~10:05(1:20)寺田登山口より周回。登山口表示なく、道を探しながら、尾根道を笹等分けながら進む。倒木地帯過ぎ別ルートと合流し緩やかな尾根を進んでゆくと鴻応山山頂。三角点あり、朝日・冬風、樹林の中の平坦な山頂。来た道を分岐まで戻るがあとは道を間違え下り、はるか下の集落の舗道に出て、駐車地まで舗道登って戻る。

○「明ヶ田尾山」10:30~11:20(0:50)高山の自然歩道登山口より往復。整備された道進み分岐(ここまで大阪環状自然歩道)。トレランの人に挨拶し北へ。稜線進むと間もなく山頂。樹林の中の平坦な山頂。・陽光・風が心地よい。来た道戻る。

○「石堂ヶ岡」11:35～11:55(0:20)茨木高原カントリーの中の山。カントリー入口より進みフロントで挨拶し、山を目指してきた旨伝えて、フロント嬢に下まで案内してもらう。上の施設の奥が山頂。一等三角点。開けた山頂だが樹林で視界今一つ。フロントにお礼述べ、ゴルフ場チラ見して戻る。

○「能勢妙見山」12:25～45(0:20)山頂駐車場手前より参道進み三角点のある山頂。幾つかの施設を拝み戻る。

○「歌垣山」13:10～13:55(0:45)堀越峠より往復。峠より整備された自然歩道の階段、植林地、急坂の木の階段上り間もなく山頂。登山者2人に挨拶。立派な石で保護された二等三角点あり。展望台ある、広場の山頂で山々の展望良い。来た道戻る。

○「小和田山」14:20～15:35(1:15)加舎の里ゴルフ場西端の鉄塔巡視路活用し往復。小刻みなコンクリ階段登り、広い道を淡々と進む。2つの鉄塔経て登山道へ。赤・黄色のテープのある尾根道を進んでゆくと山頂。三角点あり、樹林の中の平坦な山頂。曇りで風音あり。来た道戻るが途中けたたましい警察・消防のサイレンの音が続いて奥へ進んで行った様。歩き疲れで車で一息して、奥へ「深山」を目指すか雨が降りになる。行く先が、消火等で通行止め。止む無く別山の偵察へ。

○「剣尾(ケンビ)山」16:30～17:40(1:10)雨が止み、青少年野外センター自然歩道登山口より往復。偵察予定が登山口あり、登る。整備された道進み尾根合流点。大きな岩々を眺めつつ、月宝寺跡を散策して進むと剣尾山山頂。大きな岩々のある広い丘の山頂。冬風、夕日がキレイ。来た道戻る。終盤で車のクラクションと呼び声あり、答えてすぐに駆け足で下山。駐車地に車2台。奥のアスレチックにいた人で、最後にゲート閉める係で、車あり、呼んだとのこと。お詫びして急ぎ車に乗り、府道まで一気に下る。途中ゲートを確認。閉じ込められなくて良かった、声掛けに感謝。明日の天候今一つのため、今回はここまで。

2月連休 大遠征 その2

○2/11(日)大阪南2山 晴れ

○「雨山」9:15～10:05(0:50)時間短縮のため最短コースと思われる高速道橋桁の下、通行止め口より往復。高速道下のコンクリ道経て林道。少し進み右の尾根に取り付き尾根に出るが道なく、トラバース。沢の先に道らしきあり、下って沢を渡り、道を進む。テープあり、シダも生い茂る道を登り進むと本道に合流。さらに別道と合流して進むと間もなく雨山山頂。休憩所・神社ある広場の山頂。西側展望から大阪湾・関空・街並みの展望を大いに楽しむ。来た道を確認しながら戻る。

○「燈明ヶ岳」10:55～12:45(1:50)葛城方面への林道ピーク手前の広いスペース(先行2台あり)に駐車し往復。入り口に修業者の燈明ヶ岳案内入口の小さい表示板あり。本道ではない、尾根道進み、分岐は確認し西へ。急坂を下り、登り返すと(大天井ヶ岳:樹林の中の山頂で幾つか表示板あり)。ここをテープの多い北へ進むが先に山なく、間違いに気づきトラバースして西側尾根稜線へ。途中白い装束を纏った現代の修験者一行に挨拶。稜線を進み下った三差路を直進して登り、分岐を右へ進むと(経塚権現山)山頂 11:35 小ぶりの社あり拝み、先に下ると護摩焚き場で、経塚・分岐を戻り三差路より参道へ下るも先に道なく、左の護摩焚へ登ると先程と同じとこ

ろ。HP案内を再確認し経塚・分岐経て西へ。稜線進み、ロープのある急坂進むと平坦な樹林の中の燈明ヶ岳(天狗岳)山頂 12:05。少し下り天狗像あり、拝み一息。来た稜線ルートを確認しながら戻る。晴天で心地よい。これで、金剛山・葛城山系を踏破。近くに登る山なく、天候が崩れるため、今回はここまで。

2/9 休み取り 4 連休で、兵庫県淡路島まで大遠征。走行距離2千km。 その1

○2/9(金)~2/11(日)兵庫丹波 4 山、淡路 2 山、大阪南 2 山

○2/9 丹波 3 山 晴れ「黒頭峰」山頂 14:10「三尾山」同 15:40「鋸山」同 16:55 12:55~18:35 (5:40)東中登山口駐車場より往復。車 1 台あり、林道をショートカットして進むと、大きな犬2匹を連れた人が下りてきて、挨拶する間もなく連れてくる大きな犬2匹が近づいてくる。飼い主が声をかけ何事もなかったが、ぞっとした。林道のカーブのナンバーを目安に進み、終点からすぐ佐仲峠。ここから尾根に登り南下し、夏栗分岐より急坂登ると黒頭峰山頂。平坦な樹林の中の山頂。三角点あり、陽光心地よく、北に三尾山が見える。南東に山あり寄り道。下って分岐経て稜線進むと(夏栗山:簡易アンテナ設備の展望所あり。奥の観音菩薩拝み戻る。分岐より分岐ヘトラバース道経て佐仲峠へ戻る。そのまま、少し坂を登ると三尾山山頂。三尾城址の石碑あり。360 度の展望で、山々・集落の眺め楽しむ。ここまで 3 山とも残雪はまだ。稜線分岐に戻り、偵察で鏡峠へ行けるところまでと急ぎ足で進む。稜線の岩々・視岩・樹林の落ち葉道をアップダウンしながら淡々と進む。分岐経て十字路の鏡峠。まだ明るく先へ。近いと思ったがいくつものピークを越えて進み、鋸山山頂。三角点あり稜線ピークの山頂で、夕日の中、北側に山々・集落が見える。来た稜線道に戻る。鏡峠まではすんなり、後は、幾つかの登り返しの急坂が少しキツイが薄暮に分岐経て、佐仲峠へ戻る。林道は暗くショートカットできず、ライトをつけずに歩き通して駐車場に戻る、冬の星空が瞬いていてキレイ。

○2/10(土)兵庫丹波 1 山、淡路島 2 山

○「清水山」7:35~10:30(2:55)水別れ公園駐車場より周回。小雨のち雨 神社・ゲート過ぎてて林道を進み、獣ゲート経て旧林道進む。開けた沢で道不明となり、右へと植林地を進む。急坂を慎重に登ってゆく。境界杭が出て、そこを辿り本道の稜線に出る 8:20。方向わからず右往左往し、南へ進み、急坂登ると清水山山頂。三角点・反射板ある丘の山頂。小雨で煙る中、山々集落がかすかに見える。今日は雨の天候なので、ここで仕舞いと、稜線登り点の先の縦走道へ足を伸ばす。岩場等経て 1P が(蛙子峰)、案内あり先へ進むと 2P(五の山:向山連山の最高点)で雨が本降り。さらに先へ稜線進むと 3P(向山:三角点あり、平坦な山頂で植林地の中、北側が開かれている。来た道戻り、途中に南側に分岐あり進むと 4P(珪石山)山頂。そこからロープのある急坂を慎重に下る。植林地内の道を淡々と下ってゆくと最初に間違った開けた沢に戻り、後は獣ゲート経て戻る。ここからは移動。雨本降りのため、丹波から南下し入浴してゆっくり移動。淡路島大橋は料金高く躊躇したが、垂水~淡路IC間は安い模様で、垂水ICの入るのに苦労したが、強風の中、明石海峡大橋を車で渡る。

○「先山」19:15~19:40(0:25)夜となり、道をあれこれ、迷い探して何とか、先山のある千光寺神社口に駐車。傘をさして進み、大きな石柱の神社前。石段を登るとライトが 2 つ点き助かるがこの時間帯不審者防止か?。石段を最上段まで進むがゲートが閉じられ外から参拝して戻る。

○「諭鶴羽山」21:40～22:10(0:30)夜で案内不明な中、諭鶴羽神社表参道の舗道を車で登ってゆく。落石幾つかあり、大事な車のため、何度も降りて手で落石を除けながら進み神社駐車場。明りが点いている。不思議と思いつつ、雨が止み濡れなくて済むと、広い登山道をライトを点けゆっくり進むと諭鶴羽山山頂。一等三角点あり。冬風強く、社拝みすぐ来た道戻る。神社では、宮司(?)が軽トラで作業中。不審者と思われるのも嫌で、明りの点いている神社に参拝して駐車場に戻り、すぐ神社を後にした。

1/6(土)7(日)関西遠征

○1/6 奈良北2山「大国見山」13:45～14:55(1:10)曇り、桃尾の滝駐車場より往復。滝を見て、コンクリの参道進み、植林地に入り、急坂登ると神社のある大国見山山頂。小さな神社のある平坦な山頂で、西側の天理の街並みの眺めが良い。来た道を下り、参拝して戻る。

○「龍王山」15:30～16:25(0:55)R247 藤井町より往復。集落の舗道通り、山へ続く舗道進むと別道からの駐車場に辿り着く。そこから南城跡の本丸へ。少し登ると本丸の龍王山山頂。二等三角点あり、公園広場の山頂。奈良盆地・金剛山系の眺めが抜群。来た道戻る。

○1/7 和歌山北1山、大阪南4山「燈明岳」山頂 8:10「三国山」同 9:45 晴れ 7:50～12:30(4:40)堀越観音近くの駐車場より往復。展望台への道を登って行くと作業道に出て、途中より山入り、展望台過ぎて間もなく燈明岳山頂。三角点、祠ある樹林の中の丘の山頂。テントあり。先へと縦走道へ。近畿自然歩道進むも下りっぱなしのため、植林境界を上へ。作業道に出て北へ進み、さらに上のピーク 1Pへ。特に何も見当たらず、尾根の縦走ルートへ下ってゆく。少し進み小高い山に登ると(畑山)山頂:表示あり、平坦な樹林の中の山頂。先へ進み下ってゆくと自然歩道と合流。だがまた下って山頂遠くなるため、途中より水のない沢を登り、獣道・広葉樹・植林地の境界経て本道に出会い上へ。進むと舗道とレーダー施設。その左に 1Pあり。舗道に戻り東に進み小高い丘に登ると三国山山頂。三角点あり、樹林の中の山頂だが、街・大阪湾が見える。来た道戻り、最初の 1Pへ。そこから東へ進み山を探すが見つからず、地図を見てゆっくり戻ると途中で神野山の表示をテープへの文字と杭への黒ペン文字あり。(神野山)山頂を確認 11:15。樹林の中の平坦な山頂。1Pに戻り、下った最初の作業道を南へ進み、作業道の迷路に迷い込む。行ったり来たりし、作業道外れに神野山への案内表示見て、再度神野山山頂 11:50。時間の大幅ロス。再び 1Pに戻り、1段目、2段目の作業道まで下り、雪への足跡も確認し燈明岳経て、展望台から街の眺めを楽しみ戻る。

○「大石ヶ峰」山頂 13:45「和泉葛城山」同 14:10 晴れのち曇り 13:15～15:40(2:25)旧R480 鍋谷峠北側の清谷橋より往復。コンクリ階段経て急坂の作業道らしきを上へ。尾根に出て積雪上にオフロードバイクのタイヤ跡見て唖然。仕方なく尾根の道進み急坂経て大石ヶ峰山頂。樹林の中の平坦な山頂で陽光心地よい。稜線をアップダウンしながら進み電波塔脇の作業道の中央に一等三角点あり。和泉葛城山山頂。樹林の中の平坦なピーク。先へと広い作業道・電波塔脇を経て進み、車止め。駐車場経て登ると龍王神社・葛城神社の山頂。参拝し・先の展望台より街・山々の眺め楽しみ来た道戻る。

○「岩雄山」16:30～18:55(2:25)八坂神社口より周回。登山口わからず、八坂神社に参拝し、神

社向かいの河原へ何とか降りて渡渉し急坂を上へ上へ。尾根に出て今度は、南の尾根を上へ進み 1P。標高足りず山はどこか探す。西側の山は低いため、はるか南の山を目指す。尾根伝いに作業道らしきを進んでゆく。薄暗くなりあせりながら上へ小藪わけて進む。特にピーク近くは、どこがピークかわからず小藪かき分け、薄暮に何とか岩雄山山頂 17:35。樹林・小藪の中の平坦な山頂で、表示 4 つあり。遠くに西側に街明かりが見える。急いで来たため、下りに小藪に振り回され、暗さもあり所在不明に。磁石で北と東を探すが違う方向進んだ模様。止む無くそちらの方向を目指し下りつつ、修正してゆく。下り・方向を確認し北・東へトラバース修正を幾度か繰り返し、R480 の車等の明かり見え、とりあえずそちらへと下る。沢を下りかけたが、やめて尾根の続くところへトラバースし作業道らしき尾根に出て下ってゆき、最後は木製の階段経て作業中のコーンのある林舗道のR480に出て安堵 18:35。あとは旧R480道を下り、八坂神社に戻る。翌日は雨予報のため、今回はここまで。

年末年始編 その3

○1/1(月)大阪南 1 山、和歌山西 4 山 晴れ

・「東條山」6:20~8:40(2:20)石見川浄水場より往復。前日下見し最短ルートと確信しトライ。林道を進み、林道分岐より唐尾林道へ。使われなくなった林道か、荒れて土砂・草・岩等の障害・コンクリの立派な道、その道の下が崩れているなどの旧道進む。ピークより尾根へ。少し行くとテープ等あり道らしい。尾根を登ってゆくと稜線。右へ進み1P(ブロック1つあり)。標識なし、先へと進む高いところなく、戻り来た西側へ稜線進むも小深登山口への案内のみ。参考とした案内は古いもので写真に標識が沢山あるが、今は 1 つもなく、ブロックのみそのままあること等で東條山を3度踏んで山頂を確認。植林地・広葉樹の境界で平坦な樹林の中の山頂。樹間より眺めあり、金剛山からの元日の案内放送が聞こえる。来た道を確認しつつ、石見川の清流を楽しみながら戻る。

○「防城峯」10:45~11:05(0:20)車で林道終点手前まで行き、植林地道を登るとすぐ防城峯山頂。樹林の中の平坦な山頂。

○「七霞山」12:05~12:20(0:15)西富貴からの林道ピークに駐車。すぐ七霞山山頂。二等三角点あり、樹林の中の山頂。寒くすぐ下山。

○「国城山」13:25~13:50(0:25)国城神社駐車場より往復。石段登り、国城神社。地元の人に山への道を教えてもらい、西へ進み本道出合い。上へ進むと萱林。道を探りかき分け進むと国城山山頂。樹林・萱の平坦な山頂。来た道戻り、国城神社で初詣し戻る。

○「龍門山」15:25~16:30(1:05)中央コース登山口より往復。時間なく、急ぎ足で急坂を一気に上り、緩やかになり進むと龍門山山頂。三角点あり、岩と草原の平坦な広場の山頂で、街と山々の展望を楽しみ、急ぎ足で下山。

○1/2(火)晴れ 和歌山西 1 山

「飯盛山」6:10~8:05(1:55)果樹園中段より往復。登山口不明のため、車の入れる道を限界まで上り空きスペースに駐車し、あちこち上への道を探して、スーパームーンを楽しむも、諦めかけ

る。ただ、獣道らしきあり、取り敢えずと、藪入り。獣道・紐を辿り、竹藪を分けて上へと進む。藪は入口のみで後は疎らな樹林帯。上へ上へと方向を確認しながら、登ってゆく。明るいところがあり、小藪をかき分け進むと鉄塔。杖2本を立て目印にして、上へ進むと作業道。左へ進むとすぐ、山の案内表示1とあり。茨のある道を淡々と登って行くと飯盛山山頂。三角点あり、開けた樹林の中の平坦な山頂で縦走道あり。青空見えて清々しい朝を満喫。来た道を確認しつつ、入って来た藪に境界杭があることを確認しつつ戻る。今回の遠征は帰りの渋滞を恐れてここまで。